



千葉大学医学部同窓会報 第186号 題字 故 鈴木五郎 (大11卒 元るのほな同窓会長)

編集発行者 千葉大学医学部 るのほな同窓会報編集部 〒260-8670 千葉市中央区玄鼻1-8-1 千葉大学医学部内 るのほな同窓会 電話 (043) 202-3750 FAX (043) 202-3753 e-mail : info@inohana.jp HP : https://www.inohana.jp/



### 令和3年度 るのほな同窓会総会開催

令和3年度るのほな同窓会総会が令和3年6月12日(土)午後3時30分よりステーションコンファレンス東京で会場とZoom利用によるWebのハイブリッドで開催された。



吉原俊雄副会長の司会により開会となり、会議に先立ち物故者74名の冥福を祈り黙祷を捧げた。清陽高穂会長の挨拶の後、吉原副会長が議長となり、白澤浩理事より会務報告があった。各議事については白澤理事、幡野雅彦理事より説明があり、メモリアル事業では、栗原正利理事より医学部本館記録映像の説明、田邊政裕理事より医学部年表が提示された。任期満了に伴う役員選出では、新会長に吉原俊雄氏、副会長に栗原正利氏、中村真人氏、白澤浩氏が承認され、議事はすべて審議・了承された(議事要旨は30面、31面に掲載)。総会に引き続き令和3年度るのほな同窓会賞功労賞の表彰式が行われ、続いて吉原俊雄新会長が座長となり「多分野で活躍する同窓女性医師」と題して大川玲子氏、上田真喜子氏、三澤園子氏、千先園子氏4名による特別講演が行われた(講演内容は次号187号に掲載)。

千葉大学るのほな同窓会長に **吉原 俊雄 氏 (昭53)** が就任されました。(次面より令和3年度役員紹介を掲載)

写真右から 前列..大川玲子(昭47)、上田真喜子(昭50)、三澤園子(平11)、千先園子(平21) 後列..吉富秀幸(平2)、岡本和久(平2)、赤倉功一郎(昭59)、西川哲男(昭47)、幡野雅彦(昭57)、清陽高穂(昭45)、吉原俊雄(昭53)、栗原正利(昭54)、伊藤達雄(昭42)、島田英



医学系総合研究棟 (治療学研究棟)

昭(昭59)、宮本恒彦(昭54)、櫻井健一(平4)、安西尚彦(平2)、白澤浩(昭57)、中村真人(昭54)他に、中村征一郎(昭39)、諏訪敏一(昭43)、花輪孝雄(昭45)、山本修一(昭58)、松原久裕(昭59)、横須賀忠(平5)、池田啓(平9)、戸高恵美子(院博士・平17)が参加し計27名となりました。(敬称略)

令和3年 春の叙勲 **瑞宝小綬章** 渡邊 一男(昭41)

第26回 (2021年度) るのほな同窓会賞 受賞者決定

功労賞 西川 哲男 (横浜労災病院名誉院長 「国民病としての高血圧診療への挑戦」希少疾患と言われた原発性アルドステロン症のコモンディーズへのパラダイムシフト)

紙面紹介

総会開催	2
役員紹介	4
卒業祝辞	5
就任挨拶	6
人事異動	6
平澤博之記念賞	7
叙勲感想	7
各地るのほな会	11
最終講義に代えて	11
最終講義	12
地区るのほな会報	15
雑文雑誌	13
雑文雑誌	20
研修プログラム	24
研修医だより	17
附属病院	18
タッチパネル	19
学内情報	19
卒後研修先	20
追悼文	21
課外活動団体だより	22
会員から	23
欧州医学史巡り	26
著書紹介	26
議事要旨	27
編集後記	29

令和3年度 ゐのはな同窓会役員、理事紹介

会長 吉原 俊雄 (昭53)



輝かしい歴史と伝統を有する千葉大学ゐのはな同窓会の会長を令和3年6月総会にて拝命いたしました。本同窓会は昭和15年に発足し、歴代15人の会長や役員に発展に尽力され、同窓生へ多大な貢献をされました。本会の目的は「千葉大学医学部・大学院医学研究院および医学部附属病院と緊密な関連を保ちその発展に貢献するとともに、会員相互の親睦を図り、あわせて広く医道の昂揚に努めることを目的とする」と会則に記されています。

千葉大学医学部、同附属病院や他都道府県の大学・病院、研究所、診療所、行政等活躍される会員の先生方、そして医学部学生、さらに他同窓会との交流を深め意義ある情報発信を行う所存です。この未曾有の感染症も同窓一丸となつての協力体制で克服できるものと信じています。若手、女性理事を配する新役員を中心に、評議員会も活性化していきます。メモリアル事業の第一歩として旧病院を中心に医学部の歴史を盛り込んだドキュメンタリー動画を制作中です。令和6年の医学部150周年記念事業の一環とするつもりです。強靱かつしなやかな同窓会とするべく、是非会員の皆様の暖かいご支援、ご協力をお願い申し上げます。

以下自己紹介をさせていただきます。私は、学生時代剣道部、スキー部、軽音楽部に所属し青春を謳歌していました。昭和53年本学卒業後耳鼻咽喉科入局、千葉労災病院、(旧)国立千葉病院にて研修。昭和59年大学院医学研究科修了(旧第二解剖在籍)。同年成田赤十字病院耳鼻咽喉科医長。昭和60

年千葉大学医学部助手。昭和60-62年 Baylor College of Medicine 耳鼻咽喉科留学。昭和63年松戸市立病院耳鼻咽喉科部長。とくに昭和の時代は県内外の関連病院常勤不足から、(旧名で)東金病院、成東病院、鹿島労災病院、小見川中央病院、船橋医療センター、船橋中央病院、国立習志野病院、君津中央病院、川鉄病院、横須賀共済病院、小田原市立病院の外来を駆け巡り、千葉市、習志野市、銚子市、館山市の先輩方の診療所も経験させていただきました。平成元年東京女子医科大学耳鼻咽喉科講師、助教を経て平成13年同主任教授。平成25-26年同大学副学長。千葉から女子医大に入職した当時、消化器病センターはじめ複数科に多くの同窓がおられ、他流試合の環境でしたが、ゐのはな同窓会のありがたさを実感しました。女子医大時代から最近まで千葉県内の山王病院や亀田総合病院での手術機会もいただきました。平成27年ゐのはな同窓会副会長、平成28年東京都文京病院部長、東京医科大学耳鼻咽喉科・頭頸部外科客員教授(現在に至る)。平成29年東京ゐのはな会会長、本年4月東京工科大学医療

保健学部教授に就任いたしました。今後同窓会員の活躍をサポートできる同窓会となるべく新役員一同努力したいと存じます。

副会長

栗原 正利 (昭54)

財務部 学術・企画部

学生担当部

医学部・病院担当部



このたび、ゐのはな同窓会の副会長を拝命しました栗原正利です。

私は、旧第一外科に入局し、さらに呼吸器外科教室に再入局いたしました。現在、公益財団法人日産厚生会医学研究所で活動し付属の玉川病院で呼吸器外科医として勤務しております。亥鼻キャンパスは同窓会館建設、新病院棟建設、新研究棟建設など、この10年で大きく変貌を遂げました。同時に野球場、テニスコート、サッカー場など失われた施設もあります。旧本館も役割を終える運命となりました。建築後86年が経過し大変レトロ感に満ちた旧本館の移転に伴うメモリア

副会長

中村 真人 (昭54)

学術・企画部 渉外部

評議員担当部

医学部・病院担当部



このたび、副会長を拝命した中村真人です。学生時代はサッカー部・山中寮卒業後は循環器内科に所属し、平成7年から内科医院を開業しています。内科を

標準としているとはいえ、医院には外科・小児科・精神科・泌尿器科・婦人科など他領域に関連した患者が訪れますし、救急患者にも対応しなければなりません。これまで、そのような際

に、たいへん助けていただきましたし、今後もいろいろとお願いすることでしょう。このご恩を、同窓会のさらなる活性化を通じて、お返ししたいと思っております。

今、世の中は、答えのない難しい局面に置かれています。一方、本学も独立行政法人化以降、厳しい経営状況にあります。それゆえ、創立150周年に向け、同窓会は本学と表裏一体となり、その興隆に努めるべきと考えております。すべての同窓生が、新たな挑戦と創造の世界に踏み出せる機会を創出できるよう願っております。同窓生皆様のご指導・ご鞭撻と、多大なるご支援を、よろしくお願いいたします。

副会長

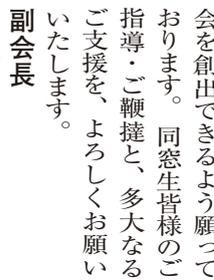
白澤 浩 (昭57)

総務部 広報部

学術・企画部

会報・編集部

医学部・病院担当部



濟陽高穂前会長の元では、大学理事として総務部を担当させて頂いております

が、この度、吉原俊雄新会長の元で副会長を務めさせて頂くこととなりました。今年度より、理事の会務分担が刷新され、機動性が発揮される体制となりました。私は、総務部、広報部・会報・編集部(会報、HPなど)に参加させて頂きます。また、栗原正利副会長(昭54)、中村真人副会長(昭57)と共に学術・企画部と医学部・病院担当部にも参加いたします。新たな会務分担は従前よりも拡大・細分化されており、アウトカムも明確に設定され、同窓会活動の見える化も促進されることと思います。

同窓会としての目下の最大の事業は、旧病院として永らく親しまれた旧医学部本館と関連する歴史等の保存を目的としたメモリアル事業になるかと思えます。医学部の新研究棟への移転、コロナ禍といった千葉大学医学部の歴史に残るこの時期に、大学に身を置く者として、本事業に参加できることを大変に光栄に思い、最大限の尽力を惜しまない所存です。また、同窓会は多くの同窓会員の皆様の「思い」なくしては存続できません。会員の皆様の奇譚のない御意見をお寄せ頂ければ幸いです。



伊藤 達雄 (昭42)



吉川 廣和 (昭40)



参与  
大井 利夫 (昭35)



秋葉 哲生 (昭50)



会計監事  
岩倉 弘毅 (昭37)



横須賀 忠 (平5)  
広報部



井上 賢治 (平5)  
総務部



岡本 和久 (平2)  
評議員担当部  
医学部・病院担当部



齊藤 光江 (昭59)  
広報部  
学術・企画部



赤倉 功一郎 (昭59)  
広報部  
渉外部

東京ろのはな会



ピラス 洋子 (昭57)  
会報・編集部



田邊 政裕 (昭49)  
評議員担当部



千葉県ろのはな会  
宍倉 正胤 (昭37)  
渉外部



林田 和也 (昭52)  
学術・企画部



埼玉ろのはな会  
諏訪 敏一 (昭43)  
財務部

埼玉ろのはな会



群馬ろのはな会  
鈴木 守 (昭39)  
渉外部



西川 哲男 (昭47)  
学術・企画部



神奈川ろのはな会  
三科 孝夫 (昭46)  
渉外部



高橋 宏和 (平11)  
財務部  
学術・企画部



黒木 春郎 (昭59)  
広報部  
評議員担当部



松前 孝幸 (昭52)  
学術・企画部



茨城ろのはな会  
石川 詔雄 (昭47)  
渉外部



山梨ろのはな会  
鶴田 好孝 (昭54)  
渉外部



静岡ろのはな会  
宮本 恒彦 (昭54)  
渉外部



中島 透 (昭56)  
総務部  
学術・企画部

### ろのはな同窓会会務

- 総務部 (総務会、理事会準備、会員名簿、会則改定など)
- 財務部 (従来の会計部)
- 広報部 (HPなど、会報・編集部と必要に応じて連携)
- 学術・企画部 (総会の際の企画など)
- 渉外部 (医師会、ろのはな会支部、行政関連など)
- 会報・編集部 (会報)
- 評議員担当部 (評議員への通達、評議員会)
- 学生担当部 (医学部及び医学研究院教官含まれることが望ましい)
- 医学部・病院担当部 (医学部及び医学研究院教官含まれることが望ましい)





三木 隆司 (昭63)  
会報・編集部  
学生担当部



幡野 雅彦 (昭57)  
財務部

千葉大学  
るのほな会



小林 敏生 (昭53)  
学術・企画部

信州  
るのほな会



星野 聡 (昭43)  
学術・企画部



十川 康弘 (昭55)  
渉外部

栃木  
るのほな会



三澤 園子 (平11)  
学生担当部  
医学部・病院担当部



諏訪園 靖 (平6)  
会報・編集部



菱木 知郎 (平5)  
医学部・病院担当部



安西 尚彦 (平2)  
総務部  
学術・企画部  
会報・編集部  
学生担当部



清水 栄司 (平2)  
学生担当部



上田 真喜子 (昭50)

近畿  
るのほな会



剣持 敬 (昭58)



森田 弘之 (昭56)

中京  
るのほな会

令和3年度 (2021年) 評議員

87名

年 卒	氏 名
昭32	
◇33	嶋田 俊恒
◇34	神田 芳郎
◇35	神田 敬
◇35	河野 宏
◇36	前嶋 清
◇37	杉岡 昌明
◇38	谷 修一
◇38	鳥羽 剛
◇39	崎山 樹
◇40	
◇41	里村 洋一
◇42	更科 廣實
◇43	北原 宏
◇44	渡辺 義郎
◇45	渡邊 義二
◇46	渡部 恒夫
◇47	大野 一英
◇47	大橋 浩文
◇48	千葉 次郎
◇48	灘岡 壽英
◇49	菅野 治重
◇50	高林 克日己

年 卒	氏 名
昭50	平井 愛山
◇51	高橋 和久
◇52	堀部 和夫
◇53	新井 貞男
◇53	山口 哲生
◇54	軍司 祥雄
◇54	巽 浩一郎
◇55	神崎 哲人
◇55	佐藤 慎一
◇56	伊丹 純
◇56	高 在完
◇57	下山 直人
◇58	後藤 茂正
◇58	丹野 裕和
◇59	伊豫 雅臣
◇59	藤本 肇
◇60	岡田 朝志
◇61	新島 真文
◇61	林 偉明
◇62	鈴木 正人
◇63	横手 幸太郎
平元	粟生田 輝
◇2	大沼 裕

年 卒	氏 名
平2	吉富 秀幸
◇3	赤坂 武
◇4	櫻井 健一
◇5	花岡 英紀
◇6	大鳥 精司
◇7	竹内 男
◇7	山口 和也
◇8	三階 貴史
◇9	腰塚 周平
◇10	太和田 暁之
◇11	小林 圭介
◇11	三宅 敦子
◇12	横谷 純子
◇12	後藤 伸子
◇13	大鳥 拓
◇13	杉本 晃一
◇14	金 宇鎮
◇15	篠原 翼
◇15	新津 富央
◇16	内野 康志
◇16	寺谷 俊康
◇17	大野 幸恵
◇17	鳩 貝 健

年 卒	氏 名
平18	今井 恵理
◇19	細川 淳一
◇20	丘 育容
◇20	岡原 陽二
◇21	幸本 達矢
◇21	山村 智彦
◇22	
◇23	椎名 裕樹
◇23	若井 健
◇24	秋葉 歩
◇25	家村 亜希
◇26	工藤 涉
◇27	桑原 千尋
◇27	小林 祐介
◇28	小野 亮平
◇29	武内 嵩
◇30	岩田 秀平
◇31	川西 朗弥
令2	杉田 明穂
◇3	易 <sup>えき</sup> 安 <sup>あん</sup> 俐 <sup>り</sup>
◇3	原田 悠斗

敬称略

下線は新評議員

# 令和2年度千葉大学医学部 卒業証書伝達式・祝辞

令和3年3月23日(火)

あのはな同窓会長

わたやう 高穂 (昭45)



本日は皆さん、卒業おめでとうございます。大学の修業過程をすべて修了し、また長かった小学校入學以来の18年間の教育期間の終了を迎え、安堵の念を抱いていることと思います。しかしそれ以上に諸君のご家族にとっては、待ちかねた日であり、また医学部教授陣をはじめ教育に当たった指導教官たちにも嬉しい一時です。そして諸君一人ひとりの満足にも増してご家族や、教育陣の諸先輩方の喜びも一入です。これまで永年ご子弟に注がれた親族としての愛情や、後輩へのご薫陶に対し、心より感謝いたします次第です。

諸君がこの亥鼻台で学び、また学園でのクラブ活動の一環として、青春の友情を育んだ日々は、何物にも代

えがたい珠玉の宝物として、生涯皆さんの心の中に輝き続けることと思います。縁あってあのはな同窓会員になったわけですが、我々同窓会は常に、皆さんのために何がしかお役に立ちたいと考えています。同窓会はいわゆる親睦団体であり、その目的とするところは「医道の高揚と会員の親睦」でありますが、年3回、会報を発行して医学部ならびに同窓会員の動静や活動状況をつぶさに報告しています。またあのはな同窓会のホームページも充実し、各自のパソコンで閲覧可能であり、ネットでも最新の情報も発信しております。診療の合間に閲覧していただくようお願いしたいと思っております。その他、図書館への支援、運動部・文化部など課外活動・東日本医科学学生総合体育大会への助成など幅広い賛助活動を実施しており、また関東各都県やその他の支部での会員活動へも積極的に支援し

ていきますので、各県で勤務される皆さんは、所属する支部と連絡を密にして、その活動に参加・協力していただくようお願いいたします。千葉大学開学135周年事業として、同窓会員総意のもとに、多額の浄財を募り、新同窓会館が5年前に完成しました。会員の母校愛の象徴としてこれからも末長く活用されるよう希望しております。わが千葉大学医学部は、開学140年の歴史を有し、優秀な研究者あるいは熱意溢れる臨床医を数多く輩出してきました。不治の病に挑み独創的な手術方法を開発し、あるいは難病の診断や治療に取り組み国際的評価を受けた先輩も多数おられます。日本医師会長として我が国の医療をリードしてこられた先輩もおられます。皆さんもこれからも努力を重ねこれら諸先輩に続いて、医療界に足跡を残す医師として成長するよう心より願っております。また昨年店頭より全世界が影響を受けた、新型コロナウイルス感染症のパンデミックは百年に一度の災厄といえるもので、とりわけ日本では、官民一体、政府・厚生労働省、専門医療群の

方々の不眠不休の尽力で、蔓延拡大感染がかるうじて抑えられています。良識ある国民の努力も大いに寄与しているものと思われま

感を感じ、またあのはな会員としての自負と誇りを持つて、よい環境で医学の研鑽が積めるよう、心より願っています。常に患者さんの期待に応えるよう努力していただきたいと思

望みます。諸君が医師としての使命をおめ度とさせていただきます。

## 第115回医師国家試験成績

試験日	令和3年2月6日(土)
	7日(日)
合格発表	令和3年3月16日(火)
受験者	134名(新卒者 129名)
合格者	127名 合格率 94.8%
	(新卒者123名 合格率 95.3%)
参考	国立 合格者 4,906名
	合格率 90.5%
	全国 合格者 9,058名
	合格率 91.4%

感を感じ、またあのはな会員としての自負と誇りを持つて、よい環境で医学の研鑽が積めるよう、心より願っています。常に患者さんの期待に応えるよう努力していただきたいと思

望みます。諸君が医師としての使命をおめ度とさせていただきます。



令和2年度 卒業証書・学位記伝達式

# 千葉大学長就任挨拶

## 中山 俊 憲 (山口大・昭59)



このたび、令和3年(2021年)4月1日より徳久剛史学長の後任として、第15代千葉大学長を務めることになりました。大変光栄に思いますと同時に、その責任の重さを改めて痛感しております。昨年11月に学長選挙(意向投票)が行われましたが、医学研究院、医学部附属病院のみならず、亥鼻キャンパスの教職員の皆様に応援いただき、多くの支持を得て学長選挙で選出の運びとなりました。これもひとえにのりなのは同窓会の会員の皆様のご指導ご鞭撻の賜と考えております。また、これまで千葉大学医学研究院長・医学部長を3期6年間務めさせていただきました。のりなのは同窓会の会員の皆様にはいろいろな局面で千葉大学医学部に篤いご支援を賜り心より感謝申し上げます。これまで6年間は、平成24年に20年後の医学部・

大学院医学研究院のあり方を若手の教授が中心となって検討した、「千葉大学大学院医学研究院のグランドデザイン将来構想」にそって、研究・教育面での改革を進めてきました。千葉大学医学部・大学院医学研究院は、千葉大学のリーディング部局として「亥鼻キャンパス高機能化構想」を推進し「世界最高水準の医学研究・教育拠点」を目指しています。医学部附属病院のみならず、薬学部や看護学部とも緊密に連携し、「治療学」を「治療の理論及び新規治療法の開発を系統的に研究・実践する学問分野」と定義し、「治療学」の研究推進と「治療学研究者」の育成を重点項目として位置づけてきました。日本をリードしグローバルに活躍する医学研究者を育成するとともに、次世代の医療を担う優れた臨床医の育成を目指すものです。

その一つの成果として、医学系総合研究棟(治療学研究棟)が令和3年3月に完成しました。80数年の時を経た現在の医学部本館から約40,000.0㎡の新研究棟に引越します。「治療学」研究の推進に必須の基礎医学と臨床医学の共同研究が効率よく行われるように、関連の基礎・臨床の教室を近くに配置することも、競争的スペースを多く準備し、そこを借用するという形で大規模の研究領域や研究資金を獲得した研究の推進を応援します。また、附属病院と渡り廊下で繋がっており、研究棟と容易に行き来出来る環境が整備されました。千葉大学医学研究院の目ざす、「治療学」の研究拠点が創成され、歴史に残る最先端の治療学研究が生まれると共に、多くの優秀な医師や医学研究者が育って行くことを夢見ております。

千葉大学全体に目を向けますと、文部科学省のもとで第3期中期計画期間の平成28年度より国立大学が3種類に区分けされた中で、千葉大学は、旧7帝国大学が属する、いわゆる第3群の「卓越した成果を創出している海外大学と伍して、全学的に世界で卓越した教育研究、社会実装を推進する取組を中核とする国立大

学(全国で16校)」に選ばれ、この方向性での更なる発展を期待されています。学長として私が目指すゴールは、「輝かしい未来を牽引する、世界に冠たる千葉大学」の実現です。もとより浅学非才の身ではございますが、教職員の皆様と、一緒に、全力で取り組む所存です。引き続き、のりなのは同窓会の先生がたの更なるご指導ご支援を切に御願ひ申し上げます。次第です。

### 人事異動

**学長**  
中山 俊憲 (山口大・昭59)  
(医学研究院院長・医学部長より)

**医学研究院長・医学部長**  
松原 久裕 (昭59)

**教授**  
呼吸器内科学 鈴木 拓児 (東北大・平6)  
(自治医科大学より)  
実験免疫学 木村 元子 (東京理大・平9)  
(免疫発生学准教授より)  
小児病態学 濱田 洋通 (平2)  
(東京女医大八千代医療センター教授より)

- |  |  |   |
|--|--|---|
| <b>准教授</b><br>分子ウイルス学 齋藤 謙悟 (新潟大南・平13)<br>(同講師より)<br>感染症生体防御学 彦坂 健児 (東北大・平13)<br>(同講師より)<br>イノベーション再生医学 高山 直也 (筑波大・平13)<br>(同講師より)<br>予防医学センター 鈴木 規道 (東電機工大)<br>(同特任准教授より) | <b>講師</b><br>腫瘍内科 大野 泉 (平11)<br>(同助教より)<br>皮膚科 外川 八英<br>(慈恵医大・平11)<br>(同助教より)<br>脳神経外科 堀口健太郎 (平13)<br>(同助教より)<br>公衆衛生学 山崎 慶子 (東農大・平10) | <b>他大学教授</b><br>埼玉医科大学 国際医療センター<br>乳腺腫瘍科 石黒 洋 (金沢大・平3)<br>東京工科大学 医療保健学部 吉原 俊雄 (昭53) |
|--|--|---|

CHIBA UNIVERSITY 令和3年3月31日 国立大学法人千葉大学

## 永年勤続表彰及び辞令交付を行いました

千葉大学医学部では、令和3年3月30日に今年度末をもって定年退職される瀧口正樹教授の永年勤続表彰及び辞令交付が行われました。

中山俊憲医学研究院長から表彰状の授与及び辞令交付が行われた後、永年の教育研究へのご尽力に対し、感謝の意が述べられました。



東京女子医科大学 八千代医療センター 糖尿病・内分泌代謝内科 大沼 裕 (平2) 獨協医科大学 産婦人科学 三橋 暁 (弘前大・平2) 金澤医科大学 脳神経内科 朝比奈正人 (滋賀大・昭62) 自治医科大学 消化器内科部門 森本 直樹 (平3)	新潟大学脳研究所附属 統合脳機能研究センター 臨床機能脳神経学分野 島田 斉 (平15) <b>病院長</b> 上都賀総合病院 安藤 克彦 (群馬大・昭60) 国保匠瑤市民病院 大嶋 博一 (平3) 松戸市立総合医療センター 尾形 章 (昭60) 船橋中央病院 山口 武人 (昭56) 松戸市病院事業管理者 横須賀 收 (昭50)
--	--

# 千葉大学大学院医学研究院長・ 医学部長就任挨拶

先端応用外科学 松原久裕 (昭59)



この度、伝統ある千葉大学大学院医学研究院長・医学部長を拝命致しました。皆様のご支援によりとて

り御礼を申し上げます。心より栄誉ある役職を賜り、心よりにたいへんな重責を担うこととに身の引き締まる思いであり心新たにしております。

1984年(昭和59年)に本学を卒業し、当時佐藤博教授が主催されていた本学第2外科に入局、沼津市立病院、国保成東病院(現さんむ医療センター)にて外科の研修を行った後、本学大学院に入学し、磯野可一第2外科教授、谷口克免疫学教授にご指導を賜り、大学院を修了しました。その後再び国保成東病院などにて外科修練を経て大学に帰局しました。2007年に先端応用外科(旧第2外科)教授を拝命するまで、文部科学省学術振興局の学

術調査官の兼任、文部科学省在外研究員としてUniversity of California San Diego, Johns Hopkins Universityへの留学などで研鑽を重ねました。消化器外科を専門とし、特に食道癌の手術、治療開発を中心に臨床・研究を進めて参りました。日本食道学会理事、日本外科学会理事、第121回日本外科学会定期学術集会会頭などの学会活動、日本医療安全調査機構の再発防止委員会委員長などの経験も積んで参りました。これらの様々な経験を礎に、千葉大学医学部・大学院医学研究院の更なる発展に尽力して参る所存です。

今回の医学研究院長立候補に当たって、未来に向けて「変化」と「多様性」を尊重しつつ、世界に向けて「治療学」の情報を発信していく千葉大学大学院医学研究院・医学部の理念を推進することを目指していくことを訴えました。シームレスなグローバル人材育成・世界トップへ挑戦する姿勢の醸成を目的に現在国

葉大みらい医療基金の更なる推進・活性化を計り、企業連携(受諾研究、共同研究)の推進・アドバイザリー契約なども積極的にを行い、財政の強靭化を推進したいと考えております。

医学研究院・医学部内での基礎と臨床のさらなる統合、連携の強化は言うまでもなく、大学内においても医学研究院・医学部、附属病院、薬学部共同のシス

テムやシーズ開発の促進、医学工学フロンティアセンター、工学部、理学部、園芸学部など多岐キャンパス以外の各学部との連携した研究も推進し、さらに学外における研究者ネットワークへの積極的参加を通じて、人的強靭化も計っていきたくと考えております。

上記実現のためには、皆様のご指導、ご支援が必要不可欠です。本学発展のため、何卒よろしくお願い申し上げます。

## 平澤博之記念賞(最優秀論文賞) 創設について

平澤博之(昭41)

日本集中治療医学会は日本医学会の分科会にも登録されています本邦における集中治療医学領域では最も権威ある学会です。この度思いもかけず、同学会に私の名前を冠した平澤博之記念賞(最優秀論文賞)が創設されました。同学会は私が最も重要視して来た学会であり、その学会に今回このような賞が創設されたことは大変名誉あることと嬉しく存じます。同学会にはその創立者の名前を冠した岩月賢一記念講演というの

## 一般社団法人日本集中治療医学会 平澤博之記念賞(最優秀論文賞)設立について

一般社団法人日本集中治療医学会は、この度、会員の研究活動の活発化を促進することを目的に、理事会の発案で、臨床分野における最優秀論文賞の位置づけで新たな賞を設けました。なお、本賞設立に際して、本学会初代理事長の平澤博之先生へ、理事会から趣旨を説明し、ご無理をお願いしたところ、多額の寄付を頂けることとなりました。その資金を副賞として用いて運営することを申し添えます。

名称は、本邦の集中治療・医学と本学会に多大なる貢献をされた平澤博之先生のお名前を冠して、「平澤博之記念賞」といたします。

- 平澤博之記念賞(最優秀論文賞) 副賞30万円
- \*日本集中治療医学会 学術賞
  - 1. 平澤博之記念賞(最優秀論文賞) 下記4賞への応募論文の中から最も価値のある臨床分野の研究論文に授与
  - 2. 優秀論文賞 本学会学術集会(同時開催の日韓学術交流合同会議など国際会議での発表も含む)で発表され、かつ権威ある学術誌に掲載された論文の中から選出(採択通知不可)
  - 3. Journal of Intensive Care賞 Journal of Intensive Careに掲載された論文の中から選出
  - 4. 日本集中治療医学会雑誌賞 日本集中治療医学会雑誌に掲載された論文の中から選出
  - 5. 奨励賞 すべての応募論文の中から選出
- 上記5賞は、正会員を筆頭著者とする論文に限る。また、同時に重複して受賞はできない。
- (日本集中治療医学会ホームページ <https://www.jsicm.org/> より転載)

# 就 任 挨 拶

## 千葉大学大学院医学研究院

### 呼吸器内科学 教授

鈴木 拓 児 (東北大・平6)



令和3年(2021年)

3月1日付で、千葉大学大学院医学研究院呼吸器内科学の教授を拝命いたしました。私は昭和の最後に東北大学医学部に入學し、平成6年に卒業いたしました。卒業後は当時83歳の日野原重明先生が院長として率いる聖路加国際病院で医師として研鑽をつみました。期せずして在職中には、地下鉄サリン事件という無差別テロの恐ろしさと災害医療を身近に経験しております。

呼吸器内科を専門に選び、母校の東北大学(当時・東北大学加齢医学研究所呼吸器腫瘍研究分野、診療科名・東北大学遺伝子・呼吸器内科)に入局し、貫和敏博教授(現在名誉教授)の薫陶をうけました。呼吸器

た。がん免疫研究にも手を染めましたが、まさか現在のような実臨床における免疫療法の時代がくるとは想像もできず、力も及びませんでした。

縁あって肺のサーファクタント研究や発生生物学などで有名な施設であるアメリカ合衆国オハイオ州のシンシナティ小児病院医療センター・シンシナティ大学(Bruce Trappell教授ラボ)に留学し、肺のマクロファージや自然免疫の研究を始めました。当初は研究成果が出ずに悶々とした不安の日々との葛藤も、時間による解決という自然の力が研究を後押ししてくれました。幸運にも遺伝性肺胞蛋白症という肺にサーファクタンが蓄積して呼吸不全に至る疾患の原因遺伝子変異の発見、バイオマーカーの同定、患者由来の細胞の樹立と病態解明、マクロファージ肺移植という新規細胞治療・遺伝子治療と一連の仕事に貢献できました。Principal Investigator (PI)として研究を続け、NIHよりROIグラントを獲得し、テクニシャンとボスドクらと仕事をすることができ、プライベートには息子の誕生など幾つもの事情が重なって、結果的には

10年以上のシンシナティ滞在になりました。そして帰国後は前任地の自治医科大学呼吸器内科(萩原弘一教授)のもとで呼吸器内科医として臨床・研究・教育の仕事継続してまいりました。

千葉大学呼吸器内科は1969年開講で50年以上の歴史のある教室です。渡邊昌平先生、栗山喬之先生、巽浩一郎先生の築き上げてきた伝統に、微力ながら新たな方向性を加えて更に発

## 千葉大学大学院医学研究院

### 口腔科学 教授

鵜澤 一 弘 (日大松歯・平3)



展させていきたいと考えております。肺循環、肺癌、間質性肺炎といった難治性呼吸器疾患の病態解明と新規治療開発に向けて、医局の先生方が力を発揮できるようなやりがいのある職場をつくり、千葉大学そして呼吸器病学に貢献すべく全力を尽くす所存であります。なのはな同窓会の先生方におかれましては、今後ともご指導ご鞭撻のほど何卒よろしくお願い申し上げます。

私は平成3年に日本大学を卒業後、歯科口腔外科学講座(現口腔科学講座)に入局いたしました。佐藤研一教授(当時)のもとで、歯科口腔外科の基礎を学んだ後、大学院に進み、私のライフワークの一つとなっております。口腔がんにおける癌抑制遺伝子に関する研究で学位を取得させていただきました。この研究で用いた数々の先進的な分子細胞生物学的手法は、当時の高次機能制御研究センターの清野進教授よりご指導を

この度、令和2年(2020年)12月1日付で、千葉大学大学院医学研究院口腔科学講座の教授を拝命いたしました。これまで、なのはな同窓会の諸先生方ならびに千葉大学の多くの先生方には格別のご指導、ご支援を賜って参りました。先ず以て、この紙面をお借りし、心より御礼申し上げます。

留学中の平成9年7月に丹沢秀樹先生(現名誉教授)が教授に就任され、平成10年12月に帰局以来、先生の指導のもとで研究・診療・教育の全般にわたり研鑽を積んで参りました。この間に、当講座の開設90周年ならびに100周年の歴史的節目にも携わることができました。本邦において最も長い口腔科学研究の歴史を刻んできた当講座の礎を築き、その伝統を医学部の中の歯科としての立ち位置を守りながら発展させてこられた歴代の指導者の先生方と、

いただきました。大学院修了後、平成8年10月から約2年間、コーラゲンクロシンク研究の世界の拠点である米国University of North Carolina at Chapel Hill (Yamauchi教授)に留学し、世界中から送られてくる様々な組織・病変の解析に携わりました。一連の研究で幸運にもコーラゲンクロシンクの質を決定する重要因子を同定することができました。そして、多くの関連するデータを共有する過程で、歯科・歯科領域に留まらず、様々な分野の研究者と親睦を深めることができ、現在でもその協力関係を維持しております。

また、私は浅学非才の身でございます。なのはな同窓会の諸先生方におかれましては、引き続き今後ともご指導、ご鞭撻を賜りますよう、よろしくお願ひ申し上げます。

時代時代で教室を支えた諸先輩方の想像を絶するご苦労に只々敬服するばかりです。

口腔科学(歯科・顎・口腔外科)は、体の入り口で全身の健康に寄与するという観点から、新たな診断法、治療法、そして予防法を見出す研究分野と捉えております。このためには、これまで緊密な連携をとってきた診療・研究分野とのさらなる協力関係を基盤として、他の領域との幅広い連携を開拓することが非常に重要であると考えております。今後は、これらを実践・推進する次代の口腔科学研究の担い手となる「治療学研究歯科医師」の育成に特に尽力して参る所存でございます。



### 東京工科大学

医療保健学部  
リハビリテーション学科言語聴覚学専攻 教授

吉原 俊雄 (昭53)



令和3年(2021年)4月1日付けで片柳学園東京工科大学医療保健学部リハビリテーション学科言語聴覚学専攻の教授を拝命しました。音声言語学の権威であり、日本喉摘者団体連合会や公益社団法人銀鈴会でご指導頂いた廣瀬肇東京大学名誉教授の推薦により新たな教育職に就くこととなりました。言語聴覚士は難聴、人工内耳術後リハビリや聴覚検査、音声言語リハビリ、特に超高齢社会における嚥下障害リハビリが主たる業務です。同大学の歴史は新しく前身の日本工学院と並列して1986年に開学し、広大な八王子キャンパスに工学部、コンピュータサイエンス学部、応用生物学部、メディア学部が設置され、蒲田キャンパスにデザイン学部と医療保

### 東京女子医科大学八千代医療センター

糖尿病内分泌代謝内科 教授

大沼 裕 (平2)



このたび、令和2年(2020年)3月26日付で東京女子医科大学八千代医療センター糖尿病内分泌代謝内科教授を拝命いたしました。おのほな同窓会の先生方をはじめ多くの方々にご支援を賜り心より感謝申し上げます。

私は、平成2年千葉大学医学部を卒業後、吉田尚教授の主宰する第2内科に入局し、吉田尚教授、その後の齋藤康教授にご指導をいただきました。

国保成東病院(現さんむ医療センター)で2年間の初期研修後、第2内科に帰局し、牧野英一先生(昭42)の主宰する糖尿病研究室で糖尿病の臨床、インスリン作用の研究を開始いたしました。直接ご指導いただいた牧野英一先生が愛媛大学医学部臨床検査医学に教授として転出するにあたり、平成9年に愛媛大学臨床検査医学へ異動いたしました。愛媛大学では、3か月後に米国より帰国した大澤春彦先生(現愛媛大学糖尿病内科教授)(昭59)が加わり、牧野先生、大澤先生指導の下、糖尿病内科のゼロからの立ち上げを行いました。

研究面では、2年間の米国バンタービルト大学への留学をはじめインスリン作用の研究、糖尿病の遺伝素因に関する研究を中心に行ってきました。愛媛大学での約20年間の診療・研究・教育生活の後、平成29年橋本尚武先生(前東京女子医科大学八千代医療センター教授)(昭55)のご推薦により東京女子医科大学八千代医療センター糖尿病内分泌代謝内科に入職いたしました。

### 獨協医科大学

産科婦人科学 主任教授

三橋 暁 (弘前大・平2)



このたび、令和2年(2020年)11月1日付けで獨協医科大学産科婦人科学講座に主任教授として着任いたしました。また、千葉大学大学院医学研究科生殖医学講座特任教授も拝命しましたので、ここに謹んでご挨拶を申し上げます。

私は、平成2年(1990年)に弘前大学を卒業してからは、父が千葉で開業(産婦人科)していたこともあり、直ちに千葉にもどり高見澤裕吉教授が主宰する千葉大学産婦人科教室で研修を開始しました。県立須坂病院(現信州医療センター)、国保小見川総合病院(現香取おみがわ医療センター)で研修後、5年目で帰局しました。

帰局後は婦人科腫瘍を専門とし、関谷宗英教授の指導のもと、HPV陰性子宮頸癌の細胞株の樹立と、そ

分野での地域連携を中心にした501床のハイブリッド型の大病院です。開院後14年になりますが、これまでに伊藤達夫名誉院長(昭42)寺井勝先生(昭53)が院長を歴任されており、現在の呼吸器外科の関根康雄教授(昭62)、小児科の高梨潤一教授(昭63)、濱田洋通教授(平2)ほか多くのおのほな同窓会の先生方が活躍されてきました。令和2年3月の教授就任後、新型コロナウイルス感染症の流行により、第1波および第3波に非常事態宣言が発出されましたが、これにより診療環境が大きく変わりました。コロナ禍に曝されることにより、診療・教育・研究に新たな課題も見えてきました。このような中ではおのほな同窓会の皆様には、ご指導、ご支援をいただき、そのありがたさを痛感いたしている次第です。これまでの経験を生かして、診療、医療人の育成、研究に全力を傾けるつもりでございます。おのほな同窓会の皆様におかれましては、今後なお一層のご指導、ご鞭撻、ご支援を賜りますようお願い申し上げます。

の発癌機序の解明をテーマに1996年に学位をいただきました。その後も文部科学省重点領域研究総合がん計画研究のEMC班研究に10年以上にわたり参加し、前向きコホート研究により日本人におけるEMC型別の発癌リスク解明にも携わりました。

その後、生水真紀夫教授の指導のもと、子宮体癌とインスリン抵抗性・耐糖能異常の関連に着目し、基礎研究・臨床研究を行ってきました。2005年に臨床試験部発足直後から花岡英紀教授に御指導いただき、多くの前向き臨床試験を行ってきました。メトホルミン併用での子宮体癌妊孕性温存療法臨床第2相試験では、データセンターにも大変お世話になりました。この成果からAMED予算を獲得し、現在子宮体癌に対するメトホルミンの癌治療への応用をめざした医師主導治験を、研究代表者として実施しております。プロトコール作成、厚生労働省やPMDAへの相談など臨床

研究中核病院として臨床試験部からフルサポートを得られたおかげと大変感謝しております。本治療は現在も千葉大学で継続させていただいており、引き続きお世話になっております。

獨協医科大学は、1973年に栃木県に設置された私立大学で産婦人科教室は私が4代目となります。2代目稲葉憲之教授(前獨協医科大学学長)、3代目深澤一雄教授は千葉大学産婦人科の同門の先輩にあたります。また千葉大学関係の先生方では、整形外科の種市洋主任教授、排洩機能センターの山西友典主任教授、第2外科の石塚満准教授が同門にあたりご高配をいただいております。最寄り駅はおもちゃの町駅という風

変わった名前前で、宇都宮から東京よりに車で30分ほどの田舎にあります。「学問を通じての人間形成」をすべるといふ建学の精神にのっとり学生教育にも力をいれ、地域社会の医療センターとしての役割も果たしてまいります。

今後は獨協医科大学でも、これまで千葉大学で御指導いただき学んだ経験を活かし、学生はじめ若い世代教育に力をいれ、リサーチマインドを持った医師を育てていきたいと考えております。同時に臨床・研究に邁進し、地域医療にも貢献してまいりますので、あのはな同窓会の先生方におかれましては、今後とも指導ご鞭撻のほどよろしくお願い申し上げます。

**埼玉医科大学国際医療センター**

乳腺腫瘍科 教授

石 黒 洋 (金沢大・平3)



令和2年(2020年)10月1日付で、埼玉医科大学国際医療センター乳腺

腫瘍科(腫瘍内科)教授・副診療部長を拝命いたしました。私が悪性腫瘍の薬物療法に興味を持ったきっかけは、金沢大学医学部在学中に進行胃癌の術後合併症で父親を亡くしたことでした。愛知県がんセンターの福島雅典先生(後に京都

大学医学部教授)から国内で研修体制が未整備であった腫瘍内科が米国では既に確立した専門領域であるとの思い、腫瘍内科専門医になるために卒後すぐに渡米しました。ECFUNGを取得し平成5年から東京海上Nプログラム3期生としてニューヨーク・ベイスラエル総合病院で3年間の一般内科臨床研修を修了し米国一般内科専門医を取得、ニューヨーク大学病院腫瘍内科・血液内科専門臨床研修に進み米国腫瘍内科と血液内科の両専門医も取得しました。

帰国後は千葉西総合病院で腫瘍・血液内科を立ち上げ、各種固形腫瘍の薬物療法から急性白血病の寛解導入までジュネラルなオンコロジストとしての診療と内科研修医の教育に従事しました。その後、千葉大学医学部病態病理学(故)石倉浩教授ご指導の下、病理学教室の医員・大学院生として病理診断および基礎研究に従事し学位(免疫不全状態での腫瘍由来H19の抗腫瘍効果)を取得しました。

大学院修了後は京都大学へ異動された福島雅典教授の下で腫瘍内科医としての研鑽と臨床研究の基礎を学び、がん薬物療法専門医を

取得しました。その後、戸井雅和京都大学乳腺外科教授の下で若手スタッフの臨床・研究指導を担当する機会も得ました。京都大学に在籍した12年間に多数の治験・臨床試験にも携わり、乳腺専門医も取得しました。医学部が新設された前職の国際医療福祉大学医学部では、大多数の科目を英語のアクティブラーニングで行うなど1/2割が留学生という国際的環境の中での教育に従事しました。がん領

**独立行政法人国立病院機構**

千葉東病院

院長 西村 元 伸 (昭58)



域の薬剤師や看護師などの教育にも携わりました。埼玉医科大学国際医療センターでは、アウトカムをより重要視した質の高いチーム医療を提供しながら若手の医師やメディカルスタッフの臨床及び研究面での教育に携わり、有効性と安全性を最大限に高めた薬物療法や支持療法の研究開発と普及に貢献したいと思っております。ご支援のほど宜しくお願い申し上げます。

した。帰国後、賛育会病院、千葉大学病院を経て、平成6年に研究室の先輩である山田研一先生にお誘いいただき国立佐倉病院に移りました。当時、国立佐倉病院は、腎移植、成人、小児腎疾患、腎病理と腎臓病に力を入れており、私もそれまでの経験をもとに糖尿病性腎臓病の診療、臨床研究を始め、これが現在に続くライフワークとなっております。

さて、千葉東病院は、国立病院が独立行政法人化された平成16年に、国立療養所千葉東病院(昭和13年創設)と国立佐倉病院(明治7年創設)が統合されて発足した病院であり、私はこの新しい病院の立ち上げに第1診療部長としてかわつてまいりました。現在、統合後15年が経過し、時代の流れに合わせて少しずつ変わってきましたが、2つの病院の特徴である神経難病(脳神経内科)、重症心身障害者(小児科)に対するセーフティネット医療と、腎臓病(腎臓内科、小児科、外科、病理診断)、糖尿病(糖尿病内分泌内科)、リウマチ・膠原病(リウマチ・アレルギー科)などの慢性疾患に対する医療を2つの柱として引き継ぎ、全診療科

が協力して患者様に頼りにされ、安心して受診できる病院を目指して進化させております。更に併設されている臨床研究部では、国立病院機構のネットワークを活かした全国レベルの多施設共同臨床研究なども積極的に、微力ではありますが医学、医療の向上に寄与すべく頑張っております。

最後に、当院では職員が一丸となって地域医療に貢献できるよう誠心誠意努力しておりますが、患者様に発生する様々な合併症では急性期病院との連携が、在宅療養への移行、慢性疾患の通常の管理では訪問診療を含む、かかりつけ医の先生方との連携が欠かせません。あのはな同窓会の諸先生方には、今後とも引き続き温かいご指導、ご支援を賜りますようお願い申し上げます。



受章の挨拶

瑞宝双光章

瑞宝双光章を受章して



中田 益 允 (昭35)

私は昨年の叙勲に際し「瑞宝双光章」授与の光栄に浴しました。私の学校医としての評価として、ありがたくお受けしました。「るのほな同窓会報」から、略歴、活動の内容につき寄稿依頼があり、書かせていただきます。

私は1960年に千葉大学医学部を卒業し、成田赤十字病院にてインターン終了、1961年佐々木哲丸教授主宰の小児科学教室研究生として「入局」いたしました。1967年家の事情で群馬県にもどり、国立渋川病院に約3年間勤務のち、1970年前橋市郊外の新設団地にて小児科医院を開業しました。やがて小学校も開設され、1975年、その学校医として委嘱されました。以来40年

間つとめさせていただきました。入局中、私は内分泌研究室に属しました。班のメンバーは小児甲状腺であり、すでに先進的な業績をあげていました。そこで私は内分泌疾患診療の実際とともに子どもの成長について学びました。とくに幸いであつたのは、当時研究室で机を並べていたのが同級生であり大学院生の村田光範氏(東京女子医科大学名誉教授)でした。氏は当時から、次代の将来性のある研究分野は成長ホルモンだと考え、研究に勤しんでいました。私は氏から成長に関する多くのことを学びました。のちに氏は日本の子どもの成長曲線を完成しました。

私が学校医となりました頃、市学校保健会は肥満児対策を始めました。私は指定校の学校医として積極的に参加しました。小児肥満は成長の問題であり、成長曲線は重要なツールとなり

ました。私が教室で学んだことは、大いに役立ち励みの元となりました。さらに幸いなことに、小学校が大規模校となった時、もう一人の内科学校医として来てくれたのが同じ研究班に居た、小児科開業の首村紀夫氏(昭40)でした。私は恵まれていたと思えました。

学校医活動としては、ほかに市医師会のインフルエンザ研究班や児童学校保健委員会活動への参加などが記憶によく残っていますが、紙幅を越えました。すでに毫碌の域に踏み込んだ者としては、ここに記しました方々、そして地域の関係者の方々へのご協力に感謝するのみであります。

令和3年度総会において選出

- 名誉会長 高穂 氏 (昭45)
- 名誉会長 秋葉 哲生 氏 (昭50)
- 名誉会長 瀧口 正樹 氏 (昭56)
- 名誉会長 道永 麻里 氏 (昭56)

るのほな同窓会地区会長挨拶

東京のほな会会長就任のご挨拶

東京のほな会

会長 岡本和久(平2)



令和3年(2021年)6月に会長に推挙されました。

様々な改革を成し遂げられ、全国のほな会の会長に就任された吉原俊雄(昭53)前会長の後任として、東京のほな会のさらなる充実と発展に尽力する所存です。

東京は、るのほな同窓会にとって特別な場所だと思っております。千葉大学医学部入学者の中で、東京出身者がおおよそ2/3を占めています。また卒業した後、東京の病院で働いているるのほな同窓会の仲間も非常に多いです。若い人たちにも、東京の病院で苦勞した先輩の話や、東京のほな会があつたからこそ助

かつた話、いろいろな話が出来ればと思っております。そんな話を交えながら、若い世代が気軽に来て、いろいろな相談や悩みをぶつける事ができる萬(よろず)相談所のような、東京のほな会にしたいと考えています。

私が卒業後、開業して東京のほな会に関わった頃は、中山恒明先生の第二外科およびその関連の先生たちが東京にたくさんいらっっしゃいました。研究でも臨床でもさすがに千葉大学と私自身も感じていました。徐々に年月を経て、新設の大学もたくさん卒業生を出し、千葉大のプレゼンスも以前よりは目立たなくなっています。

たり、外部で正しく評価されなかったりしています。非常に残念です。もともと、自分たちの仕事を押し出せるような、そういう東京のほな会にしていきたいと思っています。東京のほな会の新役員についても、今まで支えていただいた方たちに加えて、昭和大学の医学部長になられた小風暁君(平2)、東大病院産婦人科の甲賀かをりさん(平8)、若手の柳沢如樹君(平15)、武藤剛君(平19)、田啓樹君(平19)、千先園子さん(平21)も役員に加えて進めていこうと思っています。

2021年 第46回 るのほな美術展

—千葉大学医学部OBによる美術展—

9月13日(月)~9月19日(日)

AM11:00~PM6:00 最終日4時

初秋の候、益々御清菜のこととお慶び申し上げます。例年通り下記の会場で、第46回展を開催いたします。ご多用中恐縮ながら卒高覧賜りたくご案内申し上げます。

銀座 ギャラリー向日葵

〒104-0061 東京都中央区銀座5-9-13 銀座薬正ビル2F

TEL:03-3573-1680



最終講義に代えて

退任のご挨拶

瀧口 正樹 (昭56)



本年3月末日をもちまして医学研究院遺伝子生化学教授を定年退職致しました。ゐのはな同窓会の皆様方の長年にわたるご支援ご指導に厚く感謝申し上げます。例年ですと、この欄は「最終講義」と銘打たれることが多いのですが、この度はコロナ禍の影響で最終講義を中止しましたので、雑誌『千葉医学』に「最終講義に代えて―世紀に架ける生命科学の時代を歩んで」(https://opac.lib.chiba-u.jp/da/curator/109469/S03035476-97-1-P1.pdf)を寄稿致しました。完全オープンアクセスですので、研究面に関して詳しくはそちらを参照頂ければ幸いです。簡単に要約しますと、1981年(昭和56年)4月に大学院生として研究生

活に入ってから2021年(令和3年)3月の定年まで40年間の主な研究テーマは「遺伝子発現を主要な調節点とする生理的事象の統合的制御機構」で、具体的には、オルニチン回路酵素遺伝子の肝臓選択的転写の制御機構、神経可塑性調節候補遺伝子の神経伝達物質による制御機構、肝臓における日周期性遺伝子発現リズムの栄養素・ホルモンによる制御機構、等を対象としてきました。ここでは、研究面よりも、主に、同窓の皆様方との思い出を中心に綴らせて頂きます。

筆者は千葉の成田高校を卒業後、1年浪人して1975年(昭和50年)千葉大に入りまし。その頃は、入学者の平均年齢が高く、120人の定員のうち、現役1/3、1浪1/3、それ以上1/3の中でも学卒相当の強者も多く居られました。いわゆるロートル(老頭兎と書くらしい)組が、当時流行っていたキャン

デーイズの「年下の男の子」を合唱しながら、工学部前の桜並木の大通り(今は弥生通りと言う)を闊歩していた姿は微笑ましいものでした。多くの方が今も元気に活躍されております。その中で、目出度く結ばれた道永幸治・麻里(旧姓・竹内さん)ご夫妻はクラス会の永久幹事を務めてくれて

います。学生時代の部活は、当時、休部状態だった美術サークルの白鯨社を、公衆衛生学教授であられた吉田亮先生のお勧めもあり、同級の伊丹純、小川利隆、川副泰成、長沢謙次、中村達雄、鍋島秀、古本英晴の皆さんを中心に復活させました。スケッチ旅行では、後に安房ゐのはな会会長を務められた本位田泰介先生(昭和28年卒)を館山にお訪ねしたり、亥鼻祭で絵画展を催したりしましたが、必ずしも絵が得意なメンバーが多

いわけでもなく、文集を出したり思い思いに過すことが多かった気がします。病理学第二講座教授であられた近藤洋一郎先生、解剖学第三講座教授であられた千葉胤通先生が顧問をされていた平成前半にかけて活発な活動が行われていた由ですが、2003年(平成

15年)に筆者が顧問を仰せつかった後再び休部になりました。2012年(平成24年)には、山本麻琴さん、高山明日香さん(ともに平成29年卒)が中心になって再び復活を果たしてくれましたが、昨年コロナ禍の影響もあり、筆者が知る限り3度目の休部となりました。ある意味、白鯨社は不死身ですので、将来3度目の復活を期待します。

サークル活動に関しては、2003年(平成15年)から2009年(平成21年)にかけて剣道部の顧問も仰せつかりました。前任は肺癌研究施設病理研究部門教授であられた大和田英美先生、後任は細胞治療内科学(現・内分泌代謝・血液・老年内科学)教授の横手幸太郎先生でした。大和田先生も横手先生も剣道をたしなまれ、特に横手先生は剣道部OBであられますが、筆者は高校の武道の授業で防具を一、二度着けたことがあるだけの素人です。ただ、全くの私ごとで甚だ恐縮かつ恥ずかしながら、筆者の父は八段範士、千葉県剣道連盟理事長などを務めました。千葉大工学部の学生だった兄が、西千葉の剣道部で、後に千葉大学総合安全衛生管理機構長・教

授を務められた長尾啓一先生と同期であり、そのご縁で筆者が顧問を仰せつかったものと思われま。その頃の剣道部の活動については、長尾先生の「千葉大学医学部135周年記念誌・剣道部」(https://www.inohana.jp/online/135th/pdf/135th\_p367\_370.pdf)に詳しいのでご参照ください。コロナ禍の中でも、部員の学生諸君はメール等で近況を発信してくれております。「道」と名の付くサークルが少なくなる中、大変頼もしく思っております。

話を戻しますが、筆者は学2(現在の医学部4年生)の夏休みから、橋正道先生の主宰されていた生化学第二講座にお邪魔する様になり、助手の石田久枝先生(昭和46年卒)から緩衝液調製法など実験手技の基本を一から丁寧に教えて頂きました。医学部卒業と同時に、1981年(昭和56年)大学院生として橋研究室に入れて頂きました。この年は、生化学第一講座教授の三浦義彰先生の定年退職の年にあたり、大学院入室には徳島大学教授に栄転されました。他にも、森研究室には、千葉にご縁の大竹明、金澤正樹、川本進、平良真人、島田典生、村上尚の皆さんが研究生や大学院

生として参加してくれ、賑やかでした。1998年(平成10年)に熊本から千葉に戻った後については、主に、ゐのはな同窓会や、その多くの皆様が会員の千葉医学会にお世話になったことを中心に述べさせて頂きます。筆者は、2005年(平成17年)から6年間、附属図書館亥鼻分館長の任にありましたが、任期中の2007年(平成19年)に、千葉敬愛短期大学に勤務された樋口誠太郎先生が編纂された『千葉大学附属図書館亥鼻分館古医書コレクション目録』が刊行されました。5千5百冊余りに及ぶコレクションの来歴・重要性、樋

口先生のご偉業、図書館のご助力については、和漢診療学教授を務められた寺澤捷年先生が当ゐのはな同窓会報162号(2013年、平成25年)(http://www.inohana.jp/report/pdf/162.pdf#page=8)に詳細な解説をされており、この『目録』の編纂、刊行に

生として参加してくれ、賑やかでした。1998年(平成10年)に熊本から千葉に戻った後については、主に、ゐのはな同窓会や、その多くの皆様が会員の千葉医学会にお世話になったことを中心に述べさせて頂きます。筆者は、2005年(平成17年)から6年間、附属図書館亥鼻分館長の任にありましたが、任期中の2007年(平成19年)に、千葉敬愛短期大学に勤務された樋口誠太郎先生が編纂された『千葉大学附属図書館亥鼻分館古医書コレクション目録』が刊行されました。5千5百冊余りに及ぶコレクションの来歴・重要性、樋

口先生のご偉業、図書館のご助力については、和漢診療学教授を務められた寺澤捷年先生が当ゐのはな同窓会報162号(2013年、平成25年)(http://www.inohana.jp/report/pdf/162.pdf#page=8)に詳細な解説をされており、この『目録』の編纂、刊行に

生として参加してくれ、賑やかでした。1998年(平成10年)に熊本から千葉に戻った後については、主に、ゐのはな同窓会や、その多くの皆様が会員の千葉医学会にお世話になったことを中心に述べさせて頂きます。筆者は、2005年(平成17年)から6年間、附属図書館亥鼻分館長の任にありましたが、任期中の2007年(平成19年)に、千葉敬愛短期大学に勤務された樋口誠太郎先生が編纂された『千葉大学附属図書館亥鼻分館古医書コレクション目録』が刊行されました。5千5百冊余りに及ぶコレクションの来歴・重要性、樋



『千葉大学附属図書館古医書コレクション目録』

あたつては、1995年度(平成7年度)より2004年度(平成16年度)までの10年に渡り、ろのはな同窓会から多大な助成を頂きました。その後、コレクションの中でも重要な資料は図書館で電子化が進められており (https://iifll.chiba-u.jp/main/koisho.shtml; https://opac.ll.chiba-u.jp/ll/koisho/)、高細精の画像をご覧頂けます。この電子化にあたっては、2007年度(平成19年度)より、千葉医学会からの多大な助成を頂いており、現在も進行中です。

ろのはな同窓会の皆様方には、新ろのはな同窓会館設立(千葉大学医学部創立135周年記念)事業でも多額のご寄附、ご支援を賜り、大変お世話になりました。会館の設計、建設等では、事業会長・同窓会長の伊藤晴夫先生(元・泌尿器科学教授、附属病院院長)、建物・設備等整備委員会委員長の田邊政裕先生(医学教育研究室長・教授、当時)のお手伝いをして、設計、施工監修を指揮された工学部建築学科教授(当時)・栗生明先生、同窓教授・鈴木弘樹先生を始めとする皆様との毎月の打ち合わせに参加し、モニユメン

ト建設の楽しさと大変さをご体験させて頂きました。また、筆者は記念誌出版委員会委員長を仰せつかり、『千葉大学医学部135周年記念誌』の編集にあたり

ました。この記念誌には、総計160件近いご寄稿を頂き、おかげ様で大変充実した内容となりましたこと、改めて厚く御礼申し上げます。



2016年(平成28年)から2020年(令和2年)には、千葉医学会の雑誌『千葉医学』やChiba Medical Journalの編集委員長を拜命致しました。この5年間、同窓会員の皆様を中心とするご寄稿、ご投稿のおかげで、掲載論文数も順調に伸びて参りました。両誌は、以前『千葉医学雑誌』として和文と英文の論文の混在誌でしたが、2018年(平成30年)から、それぞれ独立した和文誌、英文誌となりました。これを機に、表紙も意匠を新しくし、ご存知の獅胆鷹目マークを取り入れました。このマークは、上述の135

は、千葉大のシンボルカラーであるガーネット色とともに、学章にも用いられております。まだ多色印刷が一般的ではなかった時代には、黒赤2色刷りで便利であったと思われま



お気づきの方も多いと思いますが、『千葉医学』表紙のマークは、附属病院等で良く使われるグレーを基調としたマークとは配色が異なっております。グレー

周年記念事業の一環として、工学部デザイン工学科の宮崎紀郎名誉教授の研究室でデザインして頂いたもので

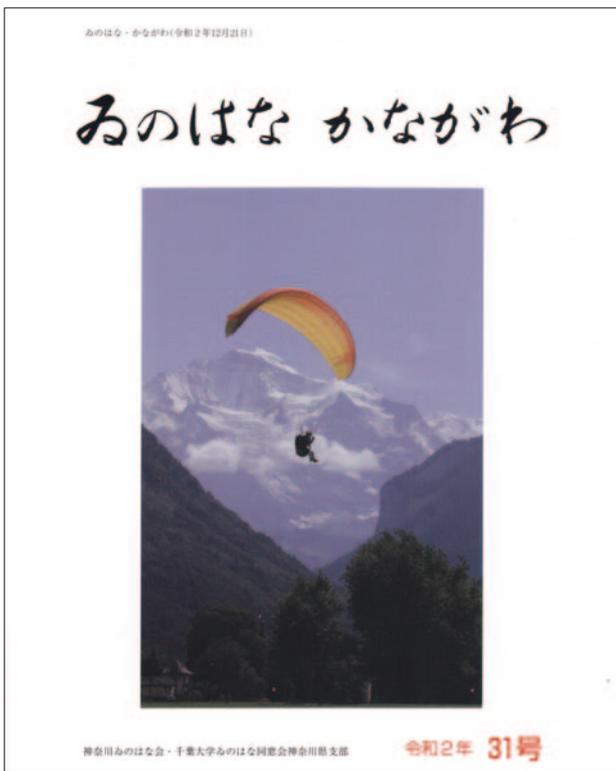


ご住所・ご勤務先等に変更がございましたら  
ろのはな同窓会にご一報ください。  
電話 (043) 202-3750  
FAX (043) 202-3753  
e-mail: info@inohana.jp

に千葉大の各学部のシンボルカラーとして医学部はライトブルー・水色となったことから、『千葉医学』の表紙ではこの色を基調としてみました。明るく親しみ



### 神奈川ろのはな会 令和2年 第31号



ろのはな・かながわ (令和2年12月21日) 1

ろのはな・かながわ 第31号 目次

巻頭言	同窓会の在り方 —神奈川ろのはな同窓会の将来像を考える—	西川哲男	2
総会	令和2年度総会開催報告	高山篤也	4
	令和元年度神奈川ろのはな会庶務報告		6
	令和元年度決算報告・令和2年度予算案		6
	総会風景		7
身辺雑記	(役に立たないコーナー) お暇な方だけ、お立ち寄りください	三科孝夫	8
	卒業して50年	島田陽子	10
	クリニック新築しました	飯沼克博	11
	雀と四十雀	高山篤也	12
	コロナ禍の船釣り	渡辺義郎	14
	思い出したこと・知ったこと	野澤聡志	16
		大塚正史	19
新規開業			22
表紙の写真			22
計帳			22
事務局より			22
作品募集			23
事務局変更のお知らせ			23
編集後記			24

題字・中村隆次/写真・小柳明明

最終講義に代えて (概要)

医療安全のこれから

相馬 孝 博 (新潟大・昭57)



ご挨拶と御礼

医療安全管理の初代教授として、千葉大学医学部附属病院にお招き頂きまして、わずか6年の在籍でしたが、医療安全を皆さまと一緒に考えることが出来ましたことを深く感謝申し上げます。私は約20年の臨床医生活を経て、2001年に厚生労働省シンクタンクの医療安全担当研究官に転身いたしました。医療安全は、医療の質の1要素であり、リスクマネジメントの観点から個人の認知・集団心理・組織論・リーダーシップと非常に幅広い領域をカバーしつつ、医療の質をマネジメントする研究分野です。長い歴史を持つ千葉大学病院における医療安全管理の基盤作りには、微力ながら参加させて頂いたことを光栄に感じております。

医療安全管理は若い学問

20世紀末に、ブレナンが入院診療録約3万冊から患者有害事象の発生状況を調査し、ハーバード医療結果研究として取りまとめ、その結果、入院患者の3.7%に医療事故が起きていることが判明しました。本研究は1999年のIOM (Institute Of Medicine) の報告書「人は過つもの」(To Err Is Human)に引用され、多数の患者が医療事故で死亡しているとして、世界中に医療安全に対する大いなる関心呼び起こしました。同年には横浜市立大病院の患者取り違え手術事故も発生し、厚生労働省は2002年に医療安全対策検討会議報告書を取りまとめ、これが本邦の安全管理の基本となりました。

初級の医療安全教科書であり、日本語訳は私が作成し、WHOまたは東京医科大学医学教育学のサイトから無料ダウンロードが可能となっています。本書では「医療者」が組織の一員として、どのように振る舞わなければならないかについて、医学の周辺分野である認知心理学・行動科学・人間工学などの諸分野を統合して解説がなされています。インシデントから学ぶその本質はデブリーフィング医療の安全性を向上させるためには、「組織として学習すること」が必須であり、そのためには出来るだけ多くの多様なインシデントを収集する必要があります。個人を責めない文化が確立していないと、インシデント報告数は増えませんが、組織文化を変えていく難しさをずっと痛感しているところです。重大な医療事故の検討も含めて、インシデントの分析はすべて組織としての「振り返り活動(デブリーフィング)」と本質的に同じものであり、同一線上で考えるべきであると思っています。すなわち、(1)インシデントの有無に関わらない) チーム活動の振り返り、(2)軽微中等度インシデント検討も

含んだ) 診療科または病棟単位の振り返り、(3)重大インシデントを検討する) 病院組織全体としての振り返り、という3つのレベルにおける検討です。事例検討会の実践

デブリーフィングを最大規模で行うのが、重大インシデントの分析です。分析方法と呼ばれている一連の方法論が、工学分野で数多く用いられています。各手法の説明は省略しますが、こうした分析手法のすべてに共通した基本的考え方は、「網羅的に」システム要因を探る」ことにあります。ただし公正に運営し、組織の記憶として残すために、いくつか重要なポイントがあります。

基本中の基本です。考えたくもないリスクをすべて洗い出しておかなければ、その対処は絶対に出来ません。COVID-19のパンデミックは、SARS (severe acute respiratory syndrome) の発生以降に一部の感染専門家は警鐘を鳴らしていたものの、私を含め多くの医療安全管理者は思いついていませんでした。歴史に学び、全リスクを洗い出しできなければ専門家を自称することはできず、大変反省させられました。

一方、古くから感染制御活動を推進してきたWHO (World Health Organization) 世界保健機関) は、2011年に全世界に向けて患者安全カリキュラムガイド多職種版を公開しました。これは世界

(1)検討会は、発生した有害事象に関与した個人を責める場ではありません。すべての寄与要因が客観的に議論されて、システムの改善に繋げていく必要があります。そのためには加害者となつてしまった医療者を組織として守る配慮は必須です。

については第三者が担保されれば十分と考えています。(3)「見える失敗」に直接関係しない委員の意見も重要であり、看護師や薬剤師などの他職種に加え、技師や事務系も議論に加わってほしいです。多種多様な観点(4)議論の目標が類似事象の再発防止であるならば、時期を逃さず、記憶が鮮明なうちに事例の検討を行う必要があります。ただし大学の病棟の診療科トップは、内外のさまざまな役割についているために集合する時間を確保することが難しい現状があります。検討会開催は組織の最重要課題であり、参加することが個人として最優先すべきと考えられるような組織文化を作つていかなければなりません。

安全は組織管理

なわち全員参加です。まとめー安全管理の骨格 結論は実に単純で愚直なものですが。

前述したIOM報告書では、(1)リーダーシップを発揮させる、(2)診療の工程デザインで人間の限界に配慮する、(3)効果的なチーム機能を促進させる、(4)不測の事態に備える、(5)組織として学ぶ環境を創る、という5項目を推奨しており、今も色あせることなく、おそらく今後ますます有効でしょう。不測の事態への対応はリスクマネジメントの

「見える失敗」について見識のある専門家を確保します。当該の診療(ケア)行為の専門性が高い場合は、外部からの委員を招聘する必要がありますが、人選に

「A hotelier must be a diplomat, a democrat, an autocrat, an acrobat and a doorman. (外交官であり民主主義者であり独裁者であり曲芸師でありドアマットである)」という名言がある。追伸・定年延長により医療安全管理部長としてしばらく留まることになりましたので、引き続きよろしくお願ひします。

さてリーダーシップ理論は進化を続けており、独りのトップが構成員を引っ張っていくという考え方は、もはや現代のリーダーではありません。20世紀後半からフォロワーとの関係性が注目されるようになって、さらに影響力が垂直性(上下関係)から水平性にも展開されるようになりました。リーダーシップ研究の権威であるノーハウスは、「グループの成員が共通の目標を達成するために、個人が影響を与えらるプロセス」と定義しました。つまり医療安全において「リーダーシップを発揮させる」ことは、上からの命令ではなく、構成員のすべてが互いに影響力を行使する行動をとることなのです。

2019年

最終講義

ヒトの健康を、人類進化を考慮した 遺伝的要因、社会的要因から考える

羽田 明 (熊本大・昭53)



はじめに

最終講義の内容は図表を含めて千葉医学会雑誌に掲載されています(千葉医学95巻4号掲載)。ここではその概略と特にお伝えしたかった事項を述べさせていただきます。

私は平成14年(2002年)に千葉大学大学院医学研究院公衆衛生学に教授として着任いたしました。出身は熊本大学医学部で、研修は岡山国立病院小児科で未熟児・新生児医療の草分け的な存在であった山ノ内逸郎先生に師事しました。その後、神奈川県立小児医療センター遺伝科でシニアレジデントとして黒木良和先生から遺伝医療の手ほどきを受けました。その後1年間、岡山に戻った後、母

校の小児科教授であった松田一郎先生に「大学院に入りたい」と申し出て、許可されました。大学院では松田先生のライフワークであった尿素サイクル異常症のひとつ、オルニチントランスカルバミラーゼ欠損症のゲノム遺伝子クローンニングと患者解析をテーマとして研究を進めました。その頃、千葉大学から熊本大学に來られていた森正敬教授と現千葉大学教授の瀧口正樹先生との共同研究でした。修了後、ユタ大学ハワードヒューズ研究所でユタの家系を使った高脂血症の研究をしました。帰国後は名古屋市立大学生化学教室に在籍した後、北海道大学公衆衛生学教室助教授、旭川医科大学公衆衛生学教授を経て、千葉大学に着任しました。千葉大学では16年以上、皆様のご支援の下、楽しく仕事をさせて頂きました。

物としての「個体」における遺伝子、細胞、生活習慣などのミクロレベルから、マクロレベルに向かって「個人の社会経済因子」である社会的ネットワーク、所得、職業・就労状況、さらに「環境としての社会」として地球環境、公衆衛生施策、職場環境などの階層構造を考えると理解しやすいと思います。このうち、「個人の社会経済因子」はイギリスにおいて1990年代から研究が始まり、わが国では千葉大予防医学センターの近藤克則教授がわが国の研究を主導しています。また、生活環境における化学物質の次世代への健康影響は同じく森千里教授が研究を主導しています。一方、ミクロレベルの遺伝子に関して、2007年のヒトゲノム計画によってヒトゲノムの解説が終わるまで、その具体的な関与が明らかになつた疾患は限られていましたが、その後の急激な進展により、すべての診療科において必要不可欠の知見を提供するようになってきました。

グローバル化した現在、わが国だけの課題解決を考えていてもその限界は明らかではないでしょうか。長期的にみると人類が今後も生存できる状況を維持するために、地球環境を考慮して多様性を維持しながら持続可能な方策をとることが必要です。その意味でWHOの提唱する17項目からなる持続可能な開発目標を、各国の実情に合わせて優先順位をつけ施策につなげるといふ手法は合理的であると思います。

本講演では1. 地球上の生物としてのヒトにおける遺伝的多様性の理解を医療健康増進に応用する、2. 健康における社会的要因をビッグデータから読み解き、施策立案をめざす、という2つのアプローチから私どもの取り組みを紹介させていただきます。

地球上の生物誕生からホモ・サピエンスまで ヒトの存在とその活動が地球環境にも大きな影響を及ぼす様になつた現在、今後の公衆衛生を考える上で、地球上で生物が誕生して以來的経緯を考える事は重要なことだと思ひます。

地球が誕生したのは約46億年前とされています。その後38億年前に核酸が出現し、25億年前からの原生代の時期に原核細胞、真核細胞、光合成機能の獲得、多細胞生物の出現を経て、5億4200万年前からの古生代でカンブリア大爆発と呼ばれる海洋生物の大量出現がおこりました。火山噴火による大量絶滅後、古生代では陸生生物、シダ植物が出現し、中生代になるとアンモナイトなどの海洋生物、恐竜の時代となりました。ユカタン半島沖に隕石が衝突したことにより、恐竜などの大量絶滅がおこりましたが、新生代に入り、絶滅を乗り越えた哺乳動物が我々の祖先となります。新生代第四期更新世の名称のひとつとして「チバニアン」が市原市の地磁気逆転を示す地層を根拠に有力候補として残っています。千葉ファンとしては是非、この言葉に決まって欲しいと切に願っています。

話は少しそれましたが、現在は現生人類であるホモ・サピエンス(以後サピエンス)が二酸化炭素、プラスチックなどを大量に排出し続けることにより地球環境に影響し、大型生物を中心に大量絶滅が進行しています。これは大きな影響で、地質時代の名称として「人新世」という言葉が

健康の決定要因

公衆衛生の課題

提唱され、始まりの時期を決める議論が進んでいます。

長い間、食物連鎖の中ほどに位置し、動物たちの食べ残して何とかしのいでいた時代を経て、約10万年前に生態系の頂点に立ったと考えられています。

人類という言葉はホモ属すべてを意味しますが、約250万年前にアウストラロピテクスが誕生したのが人類の発祥で、アフリカ各地で様々な人類が誕生し、その一部はアフリカを出てヨーロッパやアジアに旅立っていきました。ヨーロッパからアジア西部に広がった人類がネアンデルタール人(ホモ・ネアンデルタール人)でシベリアからアジア東部にひろがったのがデニソワ人(ホモ・デニソワ)です。我々、サピエンスは20-30万年前にアフリカで誕生し、一部がアフリカの外に出て行きました。10万年前には地球上に少なくとも異なる人類が6種類いましたが、1万3000年前には我々が唯一の人類となりました。最近の人類の化石を対象としたゲノム解析研究でサピエンス、ネアンデルタール人、デニソワ人は交互に交雑し、子孫を作っていたことが明らかになりました。その結果、我々のゲノムの数パーセントはこれら減ってしまった人類

由来であり、彼らの我々に先立つ数十万年にわたる環境への対応が刻まれており、今日の我々の健康にも影響していることがわかりつつあります。

サピエンスは人類の中で初めてシベリア経由でアメリカ大陸に到達し、世界中に生存域を広げ、現在では70億人台になりました。しかし、西暦1800年の世界人口は約10億人であり、その前には何度も絶滅の危機に瀕したことがわかってきます。特に4万年前から5万年前の大寒冷期にサピエンスの総人口は1万人程度まで減少したとされています。これらを考慮すると現在の70億以上の人類もその祖先はそれほど多くは無く、ほとんど血縁者同士と考える事もできるのです。

前、人種を白人、黒人、黄色人種と分類して、様々な議論がおこなわれてきましたが、皮膚の色は多くの形質の一つにしか過ぎず、1994年に人類遺伝学者のCavalli-Sforzaは「対立や差別を生む人種という概念に科学的根拠が無いことが確定した」と宣言しました。

一方、人口の急減、少数での新しい土地への移住から再び人口が増加する過程で、その前の集団と新しい集団のゲノム構成は変化が起こることもわかっています。現在、サピエンスは世界中のどの二人を比べても、ゲノムの99.8%は同じです。逆に0.2%の違いが皮膚の色、体格、牛乳などの食事の耐性、薬剤の副作用、性格、様々な能力を決めています。以前、人種を白人、黒人、黄色人種と分類して、様々な議論がおこなわれてきましたが、皮膚の色は多くの形質の一つにしか過ぎず、1994年に人類遺伝学者のCavalli-Sforzaは「対立や差別を生む人種という概念に科学的根拠が無いことが確定した」と宣言しました。

実際の最近のアフリカの皮膚の色のゲノム解析をした研究によると、アフリカの人々の皮膚の色は驚くほど多様で、世界の他の地域における多様性をはるかに上回ることがわかりました。これらを考慮してヒトの生存戦略を、Yuvai Noah Harariの「Sapiens」を参考にすると、①知的・身体障がいなどを持つヒトを含め、多様なヒトの人権を尊重することに、②ヒトが確保すること、③ヒトが7万年前の認知革命、1万2千年前の農業革命、約50年前の科学革命を通して地球上の生態系の頂点に立つたことから、今後も科学を追究しその成果を応用し、教育を通じて次世代に伝えていくことが考えられます。

ゲノム研究の急速な進展 1865年にグレゴール・ヨハン・メンデルがエンドウ豆の交配実験からメンデルの法則と呼ばれる遺伝に関する法則を発見したのが遺伝学誕生のきっかけです。この発見は注目されず、1900年に3人の独立した研究者によって再発見されたことでようやくその重要性が世界に認識されました。1953年にジェームス・ワトソンとフランシス・クリックによって遺伝子の本態であるDNAが右巻き二重らせん構造であることを発表し、その後ヒト染色体の解析手法の確立、DNA塩基配列の解析手法の確立、ヒト遺伝子多型を使った疾患遺伝子の染色体上へのマッピングなどの実験手法が徐々に発達してきました。

と発表したのは2003年でした。その後、2008年に多様な人種の遺伝子多型を網羅的に解析するハップマッププロジェクトによりヒトハプロタイプ地図が完成したことで、どの一塩基多型(single nucleotide variants: SNVs)をゲノム上からピックアップして解析すればゲノム全体を網羅した解析になるかが明らかになりました。

ゲノム (genome) という言葉はgene (遺伝子) とone (全体) を合体させた造語で、ヒト塩基配列30億塩基対全体を意味する言葉です。この30億塩基対の暗号を全部、解読することをめざしたプロジェクトが、1990年に国際共同研究として始まったヒトゲノム計画 (Human Genome Project: HGP) です。ヒトゲノム研究の最近の急速な進展は、HGPが契機となったと言えます。HGPが所期の目的としたヒトゲノム配列をすべて決定した

川崎病に關与する遺伝子の発見を基に新しい治療法を開発 川崎病は千葉大学医学部のご出身である川崎富作先生が1967年に新しい疾患として論文発表したことにより、疾患概念が確立しました。しかし、これまでの50年間にわたる多くの研究者の努力にもかかわらず、その原因は不明で、罹患者数は増加しつづけています。疾患自体は急性期を経て治癒していくものの、臨床的な最大の問題は冠動脈病変の合併です。これにより世界中で小児の後天性心疾患の最大の原因となっています。遺伝的背景が強いことから我々のグループの尾内善広准教授を中心とし、網羅的ゲノム解析により2008年に世界で初めて川崎病に關連する遺伝子群を明らかにしました。

初期に明らかにした遺伝子群が細胞内のCa<sup>2+</sup>-NFAT系の調節にかかわる可能性が高いと考えました。そこで、この経路を抑制することが知られているシクロスポリンAが治療に使えるとの仮説を基に、パイロット研究を経て、千葉大学臨床試験部の全面的な支援を受けてKAICA研究という名の全国レベルでの医師主

導治療を進めてきました。その結果、これまでの標準治療である免疫グロブリン大量静注 (IVIg) とこれにシクロスポリンAを併用する治療法で冠動脈病変の発生を比較評価したところ、併用療法に優位性があるとの結論を得ることができました。この成果は2019年3月、ランセットに掲載されました。これまで、ゲノム解析結果が治療法開発に直接結びつく例はまだ少なく、今後、このような例が増えてくるものと期待されます。私たちは川崎病に關連する他の遺伝子の機能よりB細胞の関与も明らかだと考え、現在、基礎的な研究を進めています。この研究も是非、千葉大学発の治療法開発に結びつけた

健康における社会的要因をビッグデータから読み解く もうひとつ私たちがチャレンジしたテーマが、ビッグデータから社会的要因を読み解くというプロジェクトです。これは藤田美鈴助教が担当してきました。二つのビッグデータを対象としました。一つはわが国の全レセプトデータを網羅したNational Database (NDB) です。B型肝炎感染の既往がある患者が免

疫抑制剤などで治療した場合、肝炎ウイルスが再活性化し劇症肝炎で死亡することもあるという臨床的な知見が知られるようになり、そこで私たちは、関節リウマチの治療により、再活性化と劇症肝炎がどの程度、発生するかを調べました。その結果、2年間に2人の治療をした集団76.641名のうち、B型肝炎の既往があるが治療した集団は6,095名いました。そのうち再活性化は178名で発生率は1.57%でした。劇症肝炎も発生していましたが、10名以下であったため、NDBの利用規約により発表することはできませんでした。

もう一つのビッグデータは千葉市の10年以上にわたる国保データです。このデータに医療費、収入、居住地、地域の社会資本などのデータを紐付けした統合データを利用して、地域の隣人レベルでの社会格差の気分障害発症における関与の有無、特定健康診断における地理的アクセスと社会経済的要因の関連、歯科受診における収入格差の関与、肥満の医療費への寄与割合の算出、自己申告の薬剤使用の信頼性検証、などに関して

論議し、論文文化してきまし  
た。千葉県の遺伝医療体制の構  
築

千葉大学に赴任して以来、  
千葉県こども病院の外來、  
野村文夫教授（当時）に協  
力して立ち上げた千葉大学  
附属病院遺伝子診療部の遺  
伝カウンセリングに関わっ  
ておりましたので、全国に  
先駆けた遺伝医療システム  
を構築し、これをモデルと  
して全国に広げていくこと  
を目標に活動しております。  
まだ道半ばですが、千葉県  
にはかずさCTN研究所有が  
あり、衛生検査所として登  
録されたことから、保険収  
載された希少難病遺伝子を  
中心に遺伝子検査が可能と  
なりました。検体提出機関  
として、千葉大学、千葉県  
こども病院、国立病院機構  
千葉東病院、千葉県がんセ  
ンターが想定されます。そ  
こで、これらの関係者と千  
葉県遺伝医療研究会をたち  
あげ、年2回のペースで講  
演会などを開催しておりま  
す。さらに、ちば県民保健  
予防財団が事務局として加  
わり、強力な体制構築を目  
指して努力しております。

千葉大学には、これから  
も学問（サイエンス）を最  
優先として活動して欲しい  
おわりに

と願っています。大学は学  
問と人材養成が主要な役割  
ですが、人類にとって共通  
の利益になるような役割を  
担うことこそが公衆衛生の  
発展につながると思ってい  
ます。これまで大学内外  
の事務系を含めた多くの  
方々の多大なご支援をいた  
だき、千葉大学で仕事をさ  
せて頂いたことに深く感謝  
いたします。今後のますま  
すの発展を期待しておりま  
す。

お詫び

平成31年3月に定年退任  
された羽田明先生の最終講  
義につきましては、同窓会  
報181号（令和元年5月  
10日発行）に掲載されるべ  
きでございましたが、会報  
事務担当の不手際により掲  
載できませんでした。羽田  
先生のご承諾をいただき今  
号に掲載させていただきます  
す。

掲載が遅れましたこと、  
心よりお詫び申し上げます。



雑 文 雑 談  
牢 屋 の 猫

石 出 猛 史 (昭52)

寛政7年（1795）  
伝馬町牢屋敷の牢舎内に居  
る猫について、江戸の町奉  
行から老中に何が出された  
（牢内猫之儀<sup>ニ</sup>付申上候書  
付）。百姓牢の牢名主吉兵  
衛が猫を飼っているという  
噂があった。当時吉兵衛に  
下されていた刑は「永牢」  
（無期懲役もしくは終身刑）  
である。吉兵衛に猫のこと  
を問ひ糺したところ、「牢  
内には鼠が多く収監者が糺  
られ 衣類に膿血が付着し  
たり 牢格子が齧られたり  
で難儀しています」という  
説明でした。

以前から牢内に猫がいる  
事は承知していましたが放  
置していました。吉兵衛は  
永く牢屋にいたので猫も懐  
いているのでしょう。それ  
で飼っているわけでもない  
のにそのような噂が立った  
のでしようか。猫は牢舎の  
外でも見掛けることがあり  
ます。鼠の防止にならなけ  
れば猫の存在は差障りがあ  
ると思われず。牢屋見廻  
与力にもよく注意している  
ように伝えておきます。

収監者に対しては「牢内

に及び、最近は病身であり  
ながら相変わらず他の収監  
者たちの世話を続けている。  
一方長期牢内に置くのも  
その弊害を考えなくてはな  
らない。此度牢屋見廻与力  
と牢屋奉行代理から、憐れ  
みをもつて「永牢」から「遠  
島」に変更しては如何でしょ  
うかという上申が行われた。  
これに対する評定所の評  
議の結果は、刑を「永牢」  
から「遠島」に変更して、  
手当金（島での当座の生活  
資金）十貫文（この当時一  
兩二分強）を下すという案  
が出されたが、この額では  
有難味も少いであろうから  
と三十貫文に増額された。  
この時の伺・評議とも、吉  
兵衛が永年親切に他の在牢  
者の世話をしてきたことを  
強調している。

「永牢」は本来幕府の刑  
罰規定である「御定書百箇  
条」には無い刑罰で、死罪・  
遠島から減刑された場合に  
適用された。遠島刑では流  
刑囚は縁もゆかりもない配  
流先で、衣食住のすべてに  
関して自活していかなくて  
はならない。衣食住が保障  
されている牢内の方が楽で  
ある。「御憐愍之御沙汰」に  
相当するとは思えない。

この史料には貼紙が付  
されている。「此吉兵衛儀  
永牢之内 享和二戌年正月

九日牢死」吉兵衛が牢死  
したのは「遠島」が決まっ  
てから8年後である。「遠  
島」のための船便を待つて  
いたとは考えにくい。吉兵  
衛に対する「遠島」の処置  
は、永年牢内の他の囚人を  
労つてきた事に対する褒賞  
を与えるためであったと考  
えられる。幕府には、囚人  
に対する褒賞の制度はない。  
唯一「遠島」に付随した手  
当金の下付のみである。

牢名主は牢屋奉行と牢屋  
見廻与力が協議して、牢法  
に通じた収監者から撰任し  
た。百姓牢の牢名主が同房  
の囚人を労することは、牢内  
の安寧と秩序を保つことに  
なり、幕府としては歓迎す  
るべきことである。これが  
本来の牢名主任命の趣旨で  
あろう。

会費納入のお願い  
口座振替のすすめ

令和3年度ゐのはな同窓会費（5,000円）の納入を  
お願い致します。

同封の振込用紙をご利用の場合、手数料は無料です。

会費納入には口座振替が便利です。

口座振替申込用紙は同窓会事務局までご請求くだ  
さい。

TEL : 043-202-3750

E-mail : info@inohana.jp

\*他金融機関からゆうちょ銀行への振込先

〇一九（ゼロイチキユウ）店（019）

当座0143947

# 研修プログラム

## 千葉大学医学部附属病院

### 小児外科

千葉大学大学院医学研究院 小児外科学

教授 菱 木 知 郎 (平 5)

小児科と一般内科があるように、こどもの外科治療を専門に行うのが小児外科です。小児外科は16歳未満の小児を対象とし、頸部・胸部・腹部・骨盤の各臓器を扱う外科部門です。こどもは体が小さく、特に新生児、低出生体重児の手術には小さいからこそ難しさがありませんが、それだけでなく、解剖や生理、さらに身体的・精神的・社会的な特性が成人と異なります。短期的な回復だけでなく、その子の将来にわたる質の高い社会生活を見据えた全人的医療が求められます。こうした特性を深く理解し、ご家族が安心してこどもを任せられることができる外科医が小児外科医です。こどもは、その子の人生そのものに責任を持つということなのです。

当教室の小児外科は国立大学では2番目に歴史があ

り、1976年の発足以来、日本の小児外科の診療・研究を中心的な立場で牽引してきました。一方で地域医療の最後の砦として日常的疾患から高度医療まで24時間365日対応できる体制を整えています。千葉県内の主要な小児外科施設で同門の小児外科医が活躍しており、これらの施設とは密に連携して次世代の小児外科を担う若手医師の育成のために盤石の体制を整えています。最近ではあいち小児保健医療総合センターでの小児泌尿器疾患の研修、国立成育医療研究センターでの小児外科研修など、個々のキャリアデザインに合わせた枠にとられない研修プログラムを提案しています。外科系診療科の中では女性医師の割合が非常に高い(3/4割が女性医師)のも当教室の特徴です。また全人的な医療を提供できる広い視野を持つために海外

留学も積極的にすすめています。小児外科医になるには初期研修のあと外科専門医の取得、さらに小児外科専門医を取得します。ここまで最短で6年です。その後は小児外科指導医を目指してさらに研鑽を積みま

ます。当教室では初期研修後に入局する医師もいれば、後期研修で外科専門研修をある程度済ませてから小児外科をサブスペシャリティとして選んで入局する医師もあり、どのタイミングからでもプログラムを開始できるような柔軟に対応しています。一方、当教室では研究もさかんです。小児外科専門研修の途中でほぼ全員が大学院に進学し、基礎研究教室の先生方のご指導のもと世界水準の研究を経験しています。小児外科分野には極めて希少な疾患も多く、必ずしも教科書に正解が書かれていないわけではありませ

ません。小児外科医にとってリサーチマインドを持つことはこうした場面でこそ極めて大きなアドバンテージになります。こどもたちが、自らの未来をつかみ、はばたいていくお手伝いをし、ご家族と一緒にお子さんの成長を長く、長く見守ることができ

## 千葉県救急医療センター

循環器治療科主任医長

佐野 雅 則 (平 7)

るのは小児外科医の醍醐味です。ご興味のある方は是非一度見学にいらしてください。

当院は全国的にも珍しい三次救急専門病院であり、循環器内科としては急性冠症候群、心不全、不整脈、急性大動脈解離、肺塞栓など緊急性を要する疾患を中心に診療にあたっております。心臓血管外科とも連携し虚血性心疾患に対する冠動脈バイパス術、大動脈瘤に対するステント内挿術、弁膜症に対する弁形成術や弁置換術など多岐に渡る手術を施行しております。

2020年度はCOVID-19の影響で症例が減少しましたが、例年は年間に経皮的冠動脈形成術約250例、冠動脈造影約500例、カテーテルアブレーション約80例を施行し、他にもペースメーカーや植込み型除細動器、心臓再同期療法デバイスなどの植込み術も施行しております。

研修医の先生方には主に救急医療や入院患者に対する診療などに携わっていただくこととなりますが、診療の中で心エコー、冠動脈

造影、一時的ペースメーカー挿入、大動脈バルーンパンピング挿入、タイプA病変に対する経皮的冠動脈形成術など多くの手技を習得できるように指導しております。

当院循環器内科の特徴としてチーム医療での診療体制を取っていることが挙げられます。一般的な個別の主治医制からは慣れない部分もあるかと思いますが、常に上席医も含む皆で症例に関するディスカッションをする、多くの症例に関わることができる、平日でも学会に参加しやすい、オフの日は基本的に病院から呼び出されることはないのどしつかり休養できるなどメリットも多いと思います。



当直明けも昼くらいに帰れるように配慮しております。当院の診療科は循環器内科以外に心臓血管外科、脳外科、神経内科、外科、整形外科、形成外科、精神科、麻酔科、集中治療科があります。診療科は限られていますが全100床と比較的小さな病院であり、各診療科の垣根は低くお互いに相談しやすい環境となっております。また救急疾患では全科が協力して主科をサポートする体制を取っているため、循環器疾患以外の救急診療にも接することができます。救急診療の要であるACLSの取得もサポートしております。

様々な循環器疾患の救急診療を中心とした症例を多く経験できると思います。ぜひ当院での研修をご検討いただければと思います。最後に当センター在籍のものはな同窓会員を紹介いたします。

循環器治療科・部長  
松野公紀 (平 3)  
主任医長  
佐野雅則 (平 7)  
前川潤平 (平 11)  
前川祐子 (東京女医大・平 11)  
山岡智樹 (平 13)  
医長  
橋本 理 (平 24)

# 研修医だより

## 皮膚科入局までとこれからの展望

千葉大学医学部附属病院 皮膚科

熊田 大樹 (平30)



医師3年目、皮膚科後期研修1年目の熊田大樹(くまだだいき)と申します。

私は千葉大学医学部を卒業後、国立病院機構千葉医療センターにて2年間の初期研修を経て、令和2年度より千葉大学医学部附属病院皮膚科に入局、後期研修を開始いたしました。

皮膚科を選んだきっかけは初期研修の皮膚科ローテートです。もともとは病理診断科との間で悩んでおりましたが、実際の患者様を相手にした外来診療や処置・手術などを通して、実臨床に魅力を感じたことが大きな理由となりました。

また初期研修時から皮膚科診療に関わり、皮膚科診療のやりがいを感じられたこと、(皮膚科診療の)お

おまかなイメージが得られたことは、入局の一助になりました。恩師の先生方の外来診療を実際に見た経験は、現在外勤などで自身(の実際)の診療の大きな助けとなっております。大変素晴らしい機会に恵まれ、皮膚科を選べたことは私の人生においてまさに思いがけない幸運でした。母校である千葉大学、および初期研修でお世話になった皮膚科の恩師の先生方の御恩に少しでも報いるべく、千葉大学医学部附属病院皮膚科入局を決めました。

入局後まずは、外来診療のイロハを上級医の先生方に教えていただきました。臨床写真の撮り方、写真の整理方法、顕微鏡の使い方や真菌・ウイルスの検査方法、包帯や被覆材・外用薬の使い方など皮膚科診療を行う上で必須の項目を系統立てて学ばせていただきました。

皮膚科のカンファレンス

では主に写真を提示してプレゼンテーションしますが、入院患者様のプレゼンテーションを通して写真の見せ方、パワーポイントの効果的な使い方など、今後の発表に生かせる知識も得られました。

もちろん入院患者様の担当医として上級医の先生方と相談しながら治療方針を検討した経験も他では得難く、その他皮膚生検・入院手術など様々な経験を積ませて頂いております。

令和2年度はCOVID-19蔓延という災禍に見舞われた1年であり、カンファレンスや講義などが通常より制限されておりましたが、その中でも皮膚科の上級医の先生方は後期研修医のために定期的にNOONなどを用いて講義を行ってくださっており、感謝の念に堪えません。

令和3年度は別の関連病院に異動となりますが、変わらず皮膚科診療を専攻し良い専門医となるよう邁進していく所存です。

最後になりましたがこれまで読んでくださった後輩となる先生方の参考になれば幸いです。ありがとうございます。

## 次世代医療構想センターへの

### ご支援に感謝申し上げます

次世代医療構想センター長

吉村 健 佑 (平19)

次世代医療構想センターは2019年8月に千葉大学医学部附属病院に設置され、当同窓会報第182号にてご報告致しました。多くの先生方のご支援を賜り感謝申し上げます。設置から1年半が経ち、次世代医療構想センターの研究活動が進んでおりますので、ご報告いたします。

次世代医療構想センターは、千葉県における持続可能な質の高い地域医療の実現に関する研究活動を行っています。設置当初5名だったメンバーは約20名となり、小児医療・周産期医療、救急医療の実際について関係する先生方との意見交換を行い、千葉大学病院、千葉県、地域の医療機関の3者との連携を図っています。

2020年10月には個別のヒアリングを終えた千葉県の周産期母子医療センター5病棟の管理職等に、新生児医療の現場と今後のありべき姿について、グループヒアリングという形で意見交換の場を設けました。さら

に、2021年1月には県内に12あるすべての周産期母子医療センターに呼びかけたグループヒアリングも開催しました。参加者からは、今まで、医療機関が集って意見交換をする機会がなかったことから、歓迎する声をいただいております。今後は産科医、救急医の先生方にも同様に実施して参ります。当センターは、医療提供の前線にいる方々の声を聴き、真摯に向き合い

ながら、各医療機関に寄り添った提案につなげたいと考えております。

また、昨年度は医療ビッグデータを活用した医療政策の発展のために、2020年8月、9月に「医療ビッグデータを活用した研究セミナー」をオンライン方式で開催し、約1,200名が参加され多くの方にご満足頂きました(写真参照)。引き続き、皆様に役立つ情報を提供して参ります。

新型コロナウイルス感染症の感染拡大の影響でこれらの活動を報告する機会に於いて延期を余儀なくされておりましたが、このたび2021年7月24日(土)に「千葉医療構想フォーラム」として活動のご報告をすることとなりました。詳細は次世代医療構想センターのホームページ等でお知らせいたします。同窓会の先生方におかれましては是非ご参加いただきたくご案内申し上げます。

引き続き次世代医療構想センターの活動へのご支援を賜りますようお願いいたします。



引き続き次世代医療構想センターの活動へのご支援を賜りますようお願いいたします。

医療従事者向け生命保険・損害保険のご用命は・・・  
千葉大学むのはな同窓会「会員総合補償制度」担当

**PIONEER 株式会社パイオニア**

Tel.0475-23-8442 (営業時間 8:30-18:00)  
【引受保険会社】東京海上日動火災保険株式会社



<https://www.pioneerltd.com/>

タッチパネル

駅

都川流花 (ペンネーム、同窓会員)

他の人にとってはなんというでもない場所が、自分にとっては他とは違う特別な場所になるということがある。

山手線には始点も終点もないようだが、それぞれの車両はどこかの駅から運転を開始してどこかの駅で運転を終える。その日、私は新宿へ行こうと池袋から山手線に乗った。それが池袋始発の電車だった。

私がドアの脇の席に腰を下ろしたとき車内にはまだ殆ど乗客は居らず席は広く空いていた。やがて隣に若い男が座り私に尋ねた。

「この電車は新大久保を通りますか」  
「通りますよ。三つ目です。着いたら教えてあげます」  
「そう言う」と男は「お願いします」と丁寧な頭を下げた。

発車する頃にはほとんど乗客が増えてきた。腰

の曲がつた老婆が前に来て、男はサッと席を譲って立ち上がり向かい側のドアの傍らに行って立った。

電車が高田馬場駅を出たとき、「次です」と私は男に指で合図を送り、新大久保駅に電車が滑り込んだとき、「着きましたよ」と腕を伸ばしてまた指で知らせた。

電車が止まりドアが開いた。男は「ありがとう」と言うように私に向かつて深く腰をかかめてからホームに降りていった。

ここまでならどこにでもありそうな車内の風景だ。問題はそれとあった。

私の正面に座っていた二人の女性が騒ぎ始めた。足元に置いてあった鞆がないというのだ。その男が鞆を持ち去ったのだ。私にお礼をするために腰をかかめたと見せて鞆を床から盗み取ったのだ。

しかし、ドアは既に閉まり電車は動き始めている。どうすることもできない。

二人の女性の刺すように冷たい視線が私の方に向いてきた。

その男が既に電車の中に居ないのだから、向かい側から彼に指で合図を送って指示していた私に二人の視線が向いてくるのは当然だ。

通路を隔てた反対側に居る私に何かを言う訳にはいかないだろうが、ジッと私を見ている視線の後ろで二人が何を考えているかは手に取るようにわかった。こんな視線で他人から見つめられた経験は前にも後にも私にはない。これがたった一度だ。やがて次の駅の新宿に着き、私は追われるような思いで電車を降りた。

その新大久保駅に先日久しぶりに降りた。ホームから改札に向かう階段の踊り場の壁に鉄のプレートが嵌め込まれている。2001年にホームから転落した乗客を助けようと線路に飛び下り、電車に轢かれて亡くなった韓国人留学生と日本人カメラマンの二人を顕彰する文字を刻んだプレートだ。今年2021年だからあれから20年が流れている。コロナ禍の今年は何んが10年前の2011年の

慰霊祭には韓国人留学生の両親が来ていた。プレートに献花する両親を私はテレビで見た。

「どんなに悪い子でもいいから、どんなに親に迷惑を掛ける子でもいいからやっぱ生きていて欲しいかった」  
テレビカメラの前で多くの人は建前でしゃべる。しかし、この父親は思いの全てをそのまま口に出した。この言葉はどんなきれいな言葉よりも激しく私の心に届いた。

この二つの出来事で新大久保という駅は消すことができない記憶を私の中に残している。



東京みのはな会 2021年 第24号

ISSN 1343-103X  
Inohana Tokyo  
Vol. 24  
JANUARY.1. 2021  
東京みのはな会  
千葉大学医学部みのはな同窓会 東京支部

目次  
Inohana Tokyo vol.21 Page

巻頭言	会長の言葉～新型コロナウイルスと向かい合って～吉原 俊雄	4
	故長澤仁一先生追悼文	
	長澤仁一先生を偲んで.....村瀬 靖	7
	長澤仁一先生のご逝去を悼む.....唐沢 幹人	8
新年会「特別講演」	活力ある健康長寿社会の実現.....武見 敬三	10
新任教授のご挨拶	千歳、新潟から本郷へ、異動のご報告.....南野 徹	15
卒後、節目の年を迎えて	卒後50年.....櫻井 幸弘	19
	卒後40周年を迎えて.....伊丹 純	20
	卒後40年を迎えて.....道水 麻里	21
	卒後30年を迎えて～守・破・離～.....小島 博之	23
	卒後30年を迎えて.....堀江 美正	24
	卒後30年を迎えて.....松本 伸行	25
	卒後20年を迎えて.....大門 道子	26
	卒後20年のことば.....櫻井 隆之	27
	卒後20年を迎えて.....渡辺 賢	28
厚労省日より	厚生労働省のコロナ対策におけるみのはな会員のはたらき (行政の活躍より).....松本 晴樹	30
勤務医通信	近況報告、研究紹介 (疫学研究者として).....片桐 諒子	36
	種痘内科としてのキャリアと今後の目標.....佐藤 靖祥	38
自由原稿	整形外科から公衆衛生へ.....田 啓樹	42
	武蔵新田界隈.....矢瀧 幸夫	45
	東京みのはな同窓会員 病院概要紹介.....	48
編集後記	.....	51
予算決算	.....	61
令和3年度 みのはな会 行事予定	.....	62
東京みのはな会 役割分担	.....	62
東京みのはな会則	.....	63

# 学内情報

## の は な 同 窓 会 支 援 第14回ちばBCRC

### 最優秀賞を受賞して

医学部4年 藤井 貴 大



この度、第14回ちばBCRC (Basic & Clinical Research Conference) にて最優秀賞を賜りましたことに心より感謝申し上げます。同会では「EBV陽性バークिटリンパ腫におけるエピゲノム異常の解析」について発表いたしました。Epstein-Barrウイルス (EBV) は様々な臓器のがんに関与することが知られていますが、分子腫瘍学教室での先行研究によつて、胃癌においてはEBVゲノムとヒトゲノム間の直接的な相互作用がヒトのヘテロクロマチン領域をエンハンサーとして異常に活性化し、近傍の癌遺伝子を活性化するという新規癌機構を報告しています。一方

で、EBV陽性バークिटリンパ腫において同様の機構が発癌に寄与しているかは十分に解明されていません。本研究ではその解明を目的として細胞株を用いたヒストン修飾、クロマチン相互作用解析を行い、胃癌と同様のEBV-ホストゲノム相互作用を同定すると共に、エンハンサーとしての活性化と標的遺伝子を同定し、報告しました。今後はこの機能による標的遺伝子の同定と機能解析を行い、がん化や病態形成への影響を解明していきます。私は医学部のスカラシッププログラムで分子腫瘍学教室にて研究、抄読会に参加させていただいており、ちばBCRCではその成果を発表いたしました。経験のない1年生の時から論文の読み方、実験手技、解析方法について丁寧にご指導いただき、先端研究に携わることができたことは大

変貴重な経験となつていきます。今後も学びを生かし、様々な疾患についてエビデンスを積み重ねていきたいと思います。ご理解していききたいと思います。

この度のちばBCRCにつきましても例年とは大きく異なる状況の中、開催にご尽力いただいた皆様方に

## の は な 同 窓 会 支 援 第11回 白衣式祝辞

の は な 同 窓 会 長  
高 穂 (昭45)

本日は学生の諸君ならびにご父兄の皆さん、白衣式おめでとうございます。

本日白衣を授与されて新年度より臨床実習に進む訳ですが、これはこれまで4年間の教養課程や基礎医学の学習と違い、患者さんへの前に行った実地の医療的教育であり、また医師免許取得後の臨床研修とも異なる、病氣治療についての様々な手法の学習です。

この事は医学部がいわゆる職業学校であることを物語るもので、諸君達の先輩である経験豊かな医師たちから、病める人を前に、病氣への取り組み方、患者さんへの接し方を一人一人手づからマンツーマンで教わ

厚く御礼申し上げますとともに、同会の今後益々のご発展をお祈り申し上げます。最後に本受賞にあたり、ご指導いただきました金田篤志教授、岡部篤史助教をはじめ分子腫瘍学教室の先生、スタッフの皆様方に深く感謝申し上げます。

るものです。わが千葉大学医学部は140年余の歴史を持ち、これまで優秀な研究者や熱心な臨床医を数多く輩出して来ました。不治の病に挑み、独創的な手術を開発したり、あるいは難病への診断や治療法に取り組んで国際的な評価を受けた卒業生も大勢おり、中にはノーベル賞候補にノミネートされた方もおられます。また医者のソサエティである日本医師会の会長を務めた先輩もおられます。諸君もこのような輝かしい伝統を持つのはな同窓会の会員となり、先輩方に続いてこれから、医師見習いとして医療チームに参入する

と共に、誠意と誇りを持って患者さんに接し、常にベストを尽くす心掛けで実習に臨んでください。医学はそれに携わる全ての人間が努力を傾ける医科学、すなわちサイエンスの学問であり、『医療』とはその知識を応用して病氣を克服する、人間性溢れる作業であり、患者さん主体のものなのです。

また『医療の要件』つまり医療に必要な条件として、約100年前の1917年に米国外科医学会が定めた、すなわち『安全、有効、患者中心、即時的、効率的、公平』が現在ももつとも尊重されています。

千葉大学創立135周年事業の一環として、6年前に新しい同窓会館が落成しました。これを各種研究会やクラブ活動などに大いに活用し、亥鼻台における皆さんの友情を育む同窓の拠り所となるよう願っております。皆さんがこの千葉大学で素晴らしい医学教育を受け、医療界に貢献する医師として成長するよう同窓会も精一杯支援したいと思っております。おのれの健康にも充分留意して頑張ってください、健闘を祈っております。



【写真提供：フォトチョイス】

## 令和3年卒業生の卒業研修先

1年目	2年目	人数	1年目	2年目	人数
君津中央病院	君津中央病院	9	小張総合病院	小張総合病院	2
成田赤十字病院	成田赤十字病院	8	船橋二和病院	船橋二和病院	2
千葉労災病院	千葉労災病院	6	関東中央病院	関東中央病院	2
千葉労災病院	千葉大学医学部附属病院	1	国立病院機構千葉医療センター	国立病院機構千葉医療センター	1
関東労災病院	関東労災病院	2	国立病院機構災害医療センター	国立病院機構災害医療センター	1
千葉市立青葉病院	千葉市立青葉病院	6	国立病院機構西埼玉中央病院	国立病院機構西埼玉中央病院	1
千葉市立青葉病院	千葉大学医学部附属病院	1	千葉県がんセンター	千葉県がんセンター	1
千葉市立海浜病院	千葉大学医学部附属病院	1	千葉県循環器病センター	千葉県がんセンター	1
船橋市立医療センター	船橋市立医療センター	6	茨城県立中央病院	茨城県立中央病院	1
松戸市立総合医療センター	松戸市立総合医療センター	5	都立墨東病院	千葉大学医学部附属病院	1
松戸市立総合医療センター	千葉大学医学部附属病院	2	東京大学医学部附属病院	東京大学医学部附属病院	1
国立国際医療研究センター	国立国際医療研究センター	4	東京医科大学病院	東京医科大学病院	1
国立国際医療研究センター国府台病院	国立国際医療研究センター国府台病院	1	東京女子医科大学病院	東京女子医科大学病院	1
国保旭中央病院	国保旭中央病院	4	東京警察病院	東京警察病院	1
国保旭中央病院	千葉大学医学部附属病院	1	東京通信病院	東京通信病院	1
千葉県済生会習志野病院	千葉県済生会習志野病院	4	川崎市立川崎病院	川崎市立川崎病院	1
東京都健康長寿医療センター	東京都健康長寿医療センター	3	川崎市立多摩病院	川崎市立多摩病院	1
東京都健康長寿医療センター	千葉大学医学部附属病院	1	川崎市立井田病院	川崎市立井田病院	1
聖路加国際病院	聖路加国際病院	3	市立芦屋病院	市立芦屋病院	1
JCHO東京新宿メディカルセンター	JCHO東京新宿メディカルセンター	2	春日部市立医療センター	春日部市立医療センター	1
JCHO横浜中央病院	JCHO横浜中央病院	1	沼津市立病院	千葉大学医学部附属病院	1
自治医科大学附属病院	自治医科大学附属病院	2	虎の門病院	虎の門病院	1
千葉大学医学部附属病院	千葉大学医学部附属病院	2	彩の国東大宮メディカルセンター	彩の国東大宮メディカルセンター	1
日本赤十字社医療センター	日本赤十字社医療センター	2	三井記念病院	三井記念病院	1
さいたま赤十字病院	さいたま赤十字病院	2	新百合ヶ丘総合病院	新百合ヶ丘総合病院	1
武蔵野赤十字病院	武蔵野赤十字病院	1	永寿総合病院	永寿総合病院	1
小川赤十字病院	小川赤十字病院	1	東葛病院	東葛病院	1
深谷赤十字病院	千葉大学医学部附属病院	1	同愛記念病院	同愛記念病院	1
横浜市立みなと赤十字病院	東京医科歯科大学医学部附属病院	1	熊谷総合病院	千葉大学医学部附属病院	1
千葉中央メディカルセンター	千葉中央メディカルセンター	2	東京大学大学院医学系研究科		1
千葉メディカルセンター	千葉メディカルセンター	1	ゴールドマン・サックス証券株式会社		1
千葉メディカルセンター	千葉大学医学部附属病院	1	エムスリー株式会社		1
公立昭和病院	公立昭和病院	2			

追 悼

若新政史先生を偲んで

上 田 志 朗 (昭50)



若新政史先生に初めてお会いしたのは、私がまだ学4の時でした。昭和49年の夏、サッカー部の合宿で監督に、一般の練習以外に早朝練習でキーパーとして鍛えられた時、直後にトイレにて尿が強く茶褐色でした。林學先生に大病院に行き若新先生に診てもらいなさいと指示されました。若新先生は私の尿を見て、「強行軍血尿だ！」とおっしゃり点滴をしていただきました。「合宿にはもう行くな」と言われましたが午後自宅

にも研修医として学ばせていただきましたが、スタンダードクリアランス等の検査が煩雑でありあまり魅力を感じていませんでした。さらに、入局後しばらくして東條先生、成田光陽先生、小山哲夫先生方は筑波大学へお移りになりました。出張が小田原市立病院に決まり、昭和51年10月から赴任予定でしたが、9月中旬若新先生から「上田君私の下で研究しないか」と誘われました。かなり迷ったのですが、誘っていたのだから、若新先生の下で研究しようと決心しました。5、6年は研究しようと考えていましたが長い年月お付き合いすることになりました。不十分ながら腎臓専門医として一生働く方向性が若新先生により作られたのです。小田原出張直後より、1週に1度千葉大に実験のため通いました。最初のテーマは薬剤性腎症の機序解明でモルモットに抗リウマチ薬である金

劑シオゾールを低用量から高容量で注射し、それらのモルモットから毎週尿を採取しました。畜尿ゲージで採尿するのですが尿の溜まる容器は水漬にしました。尿局後実験で得られた、尿や血液を若新政史先生、若新洋子先生から直接指導され、分析いたしました。その実験結果をまとめた論文が10年後にKidney Intに採用されました。その採用の手紙が、私が多古中央病院で当直をしている際に、医局に届きました。若新先生から夜電話があり「手紙を開封してよいか？」とのことでした。もちろん、結果を見てくださいと答えました。その直後「上田君おめでとう、通ったよ！」と涙声で伝えてくれました。その声が今でも心の底に響いています。

若新先生は平成になつて卒後生涯教育講座の教授になられました。そこを辞してからは、ご自宅で洋子先生と一緒に開業なされました。開業なされてからも折に触れ私は先生のお宅に遊びに行き、3人でタバコを吸いながら歓談しておりました。そしてある頃から私の診療所にて定期的に検査をさせていただきます。数年前、肺に転移性の多発性病変があると聞き、腫瘍マーカーを数種類測定させていただきます。いただいたところ、CEAが1000以上に達しておりました。すぐ同級生の丸岡正幸先生に紹介したところ、胸の腫瘍は前立腺癌の転移の典型的形であるとの

ことでした。直ぐに非手術的治療を実施していただき、癌は完治いたしました。御恩のある先生に少しでも役立つことができた、神様に感謝しております。激しい一生をお過ごしになられ、帰らぬ人となりましたが、人生の師匠、私の親分として慕い続けて行きたいと思っています。



千葉県職員人事異動

- 保健医療大学
  - 龍野 一郎 (昭57) 学長
  - (東邦大学医療センター 佐倉病院) 佐倉病院
  - 太和田暁之 (平10) 教授 (新採)
- 病院長
  - がんセンター
  - 藤里 正視 (昭59) 副病院長
  - (医療局診療部長) 鍋谷 圭宏 (昭60)
  - (医療局診療部長) 腸外科部長 加藤 厚 (平元)
  - 医療局診療部肝胆臓外科部長 (新採)
- 救急医療センター
  - 賀川 真吾 (平14) 主任医長 (新採)
  - 宮田 昭宏 (昭62) 病院長 (医療局診療部長)
  - 嶋村 文彦 (昭63) 医療局診療部長
  - (医療局検査部長) 松野 公紀 (平3)
  - 医療局診療部循環器治療科部長 (主任医長) 松村 洋輔 (平17)
  - 医療局診療部集中治療科部長 (医長) 吉田 充彦 主任医長 (医長)
- 子ども病院
  - 角田 治美 (昭60) 医療局診療部長 (医療局診療部血液・腫瘍科部長) 落合 秀匡 (平9)
  - 医療局診療部血液・腫瘍科部長 (主任医長) 柿崎 潤 (平13)
  - 医療局診療部整形外科部長 (主任医長) 平野 香織 (平12)
  - 医療局診療部眼科部長 (主任医長)
- 循環器病センター
  - 岡嶋 良知 (昭58) 病院長 (副病院長) 中村 精岳 (昭和大・昭60) 副病院長 (医療局長)
- 青柳 京子 (平13) 医療局診療部脳神経外科 (主任医長)
  - 平沼 泰典 (山形大) 主任医長 (医長)
  - 原田 順哉 (平17) 主任医長 (医長)
  - 佐原病院
    - 田中 武継 (滋賀医大・昭59) 副病院長
    - (医療局診療部長)
  - 香取健康福祉センター
    - 大野由記子 (東北大・昭57) 香取健康福祉センター長・香取保健所長
  - 千葉県職員より退職
    - 田邊 政裕 (昭49) 保健医療大学長
    - 石井 猛 (昭56) がんセンター副病院長
    - 石橋 巖 (昭55) 救急医療センター病院長
    - 村山 博和 (昭55) 循環器病センター病院長
    - 雄賀多 聡 (昭55) 保健医療大学教授・副学長
    - 藤原 慶一 (平2) 保健医療大学教授
    - 東本 恭幸 (昭59) 保健医療大学教授
    - 青墳 裕之 (昭55) 子ども病院技監

### 茨城県のるのほな会 令和2年12月 第8号

いばらき **るのほな**  
第8号  
令和2年12月28日

茨城県のるのほな会  
千葉大学医学部るのほな同窓会茨城県支部



ヒメヤマチヤレンジ

Harmony of Humanity and Advanced Medicine

#### 目次

- 巻頭言 ..... 会長 石川 詔雄 (昭和47年卒) 1
- 抗生物質時代の終焉と代替療法の模索 ..... 中山 宗春 (昭和29年卒) 3
- 千葉大学医学部での思い出 ..... 小泉 準三 (昭和30年卒) 7
- “青春のかけら”を懐かしむ ..... 後藤 澄夫 (昭和30年卒) 10
- 茨城県立友部病院の思い出 ..... 羽田 忠 (昭和34年卒) 13
- 新型コロナウイルス感染症防止のために早期の検査を ..... 大木 勲 (昭和38年卒) 14
- 一口嚙、軒下のコスモス ..... 高瀬 靖広 (昭和40年卒) 15
- 叙歎によせて ..... 竹島 徹 (昭和41年卒) 16
- 千葉大学附属病院建設当時の時代背景について ..... 石川 詔雄 (昭和47年卒) 18
- 世界の屋根ヒマラヤHimalayaを行く ..... 榎本 貴夫 (昭和47年卒) 22
- チェコ共和国における救急ラリーとビールと、そして... ..... 大橋 教良 (昭和48年卒) 25
- 「水戸、金沢、千葉、そして、小美玉での鉄道人生」 ..... 諸岡 信裕 (昭和48年卒) 29
- 猫のこと ..... 高田 俊一 (昭和52年卒) 32
- 本の終活 ..... 松前 孝幸 (昭和52年卒) 34
- コロナ感染症とその周辺 ..... 仁平 武 (昭和58年卒) 36
- 筑波大学附属病院の近況報告 ..... 山崎 正志 (昭和58年卒) 39
- コロナ後の診療所 ..... 金子健太郎 (平成3年卒) 41
- 開業とゴルフ ..... 阿久津泰典 (平成7年卒) 42
- 表紙の言葉 ..... 榎本 貴夫 (昭和47年卒) 44
- 活動報告 ..... 仁平 武 (昭和58年卒) 45
- 編集後記 ..... 松前 孝幸 (昭和52年卒) 47
- 会員名簿 ..... 48
- 会 則 ..... 51
- 投稿規定 ..... 52

### 静岡県のるのほな会 令和3年1月 第29号

第29号 るのほな静岡

新型コロナウイルスの時代の支援活動  
静岡県のるのほな会会長 宮本 恒彦

**るのほな静岡**

発行 令和3年1月吉日 第29号

発行：静岡県のるのほな会  
会長 宮本恒彦  
編集：るのほな静岡  
編集委員会

日頃より静岡県のるのほな会の活動に尽力いただきありがとうございます。この会報が早くも新型コロナウイルスの問題がどのようになっているのかわかりませんが、初期のうちに先が見えない状況で、世の中もそうですが今後の公衆衛生のあり方にも真摯に見守る必要がありそうです。中でも、市中の動きが少しづつ変わりました。もちろん一時的に止まらなければならぬものはたくさんあります。でも、世界で十分理解できず、実際に現場でやっていると、手合えばもともと、もちろん人と出会うこと自体を含め、一時的にストップしていることが多く、マスクを着用していることが多く見られます。これは、感染防止の観点から、非常に重要なポイントです。しかし、一方で、感染防止の観点から、非常に重要なポイントです。しかし、一方で、感染防止の観点から、非常に重要なポイントです。...

#### るのほな静岡 第29号

#### 目次

- 新型コロナの時代の支援活動  
静岡県のるのほな会会長 宮本 恒彦 ..... 1
- 令和2年度 総会報告 ..... 2
- 千葉大学医学部附属病院  
画像診断センターへの転任 ..... 藤本 肇 ..... 3
- 浜松医科大学教授を退職して ..... 難波 宏樹 ..... 8
- 静岡県のるのほな会と浜松医療センター  
浜松医療センター 呼吸器内科 笠松 紀雄 ..... 11
- 開業医のコロナ対策 ..... 中山 貴裕 ..... 13
- 野末道彦先生と静岡県のるのほな会の歩み ..... 宮本 恒彦 ..... 16
- 勝呂先生を偲んで ..... 菅ヶ谷純弘 ..... 18
- 理事会報告 (2020.4) ..... 19
- 理事会報告 (2020.10) ..... 19
- 掲示板  
令和3年度総会のお知らせ ..... 24
- 編集後記 ..... 24

# 課外活動団体だより

## 亥鼻バドミントン部

医学部4年 赤江公孝

亥鼻バドミントン部は医学部、看護学部、薬学部の約90名で活動しております。顧問の松下一之先生をはじめ、たくさんのOB・OGの先生方にご支援を賜りながら、日々充実した活動をいたしております。中学、高校でのバドミントン経験者から初心者まで幅広く、多数の部員が一致団結して、週3回練習を行っております。亥鼻体育館だけでなく、千葉ポートアリーナや千葉公園体育館、時には葛城中学校の体育館をお借りすることもあり、地域住民の方々のおかげで十分な練習環境をいただいております。2月現在は新型コロナウイルスの影響で、活動ができない状況ですが、感染対策や大会日程等の再調整など、再開に向けて幹部一同模索しているところです。

出場する大会には、春・秋の定期リーグ戦、東日本医科学生総合体育大会、新人戦、関東コメディカルリーグなどがあります。春の定



2019年度 東日本医科学生総合体育大会

看護学部生・薬学部生は関東コメディカルリーグを目標とし、個人としてのスキルアップにも励んでおります。大会前では、最大限のパフォーマンスを発揮できるように、大人数でも効率よく練習を計画しております。直近の東医体では、男子団体ベスト8を果たしました。新人戦においては、各部門が非常に優秀な成績を収めており、初心者部員の大きな目標となっております。週3回の正規練習以外に

も、各部門が自主練習を積極的に行い、自らの定めた目標に向かって励んでいます。練習や大会以外では、大会後の反省会や様々な企画を通じて、学部や学年を越えた交流を重ねています。亥鼻でも屈指の大所帯であるため、賑やかで活発な姿が見受けられます。新型コロナウイルスの影響により、活動に制限はありますが、一日でも早く平穏な日常に戻れることを心待ちにしております。

末筆ながら、顧問の松下一之先生をはじめ、OB・OGの皆様方には深く感謝申し上げます。しばらく対面での挨拶や活動報告をいたせず、申し訳ございません。並びに、医学部後援会や同窓会、日々の活動を支えてくださる学生支援係の皆様方にも心より感謝申し上げます。今後とも、ご支援のほどよろしくお願いいたします。よりよい報告ができるよう、部員一同努力を重ねてまいります。

**役員名**  
 男子主将…赤江 公孝  
 女子主将…齋藤江里彩  
 主務…浅野 峻  
 谷口 沙夕  
 計…上野 達矢

## 亥鼻空手道部

医学部4年 菊地 佑

この度は「あのはな同窓会報」に私たち空手道部の紹介の機会をいただき誠に光栄に思います。はじめに、空手道部の沿革について簡単に説明します。1958年に発足した空手同好会を前身とし、1962年に正式に空手道部として設立されました。ところが1969年に部員数の減少に伴い活動休止に追い込まれてしまいました。その後1975年に空手道部として再建され、2021年2月現在で医学部9人、薬学部2人看護学部3人の計14人の部員が集まりました。大人数の団体とは言えませんが、人数であり、部員のそれぞれの人柄に恵まれ、温かみのある団体だと思っております。

次に最近の活動ですが、昨今の新型コロナウイルスの関係で活動を縮小および停止をしておりますのでこれまでの活動内容について紹介いたします。空手道部は和道流空手の指導を水曜日と遠藤正行師範からいただき、月、金曜日は部員同



2019年2月 亥鼻キャンパス武道場にて撮影

士で精進しています。大人数ではないためそれぞれで教えあうことができ、練習メニューもある程度決まったものがありますが、部員の希望などを反映できるといったことが私たち空手道部の特徴と考えております。遠藤師範による指導では空手道に求められる基礎体力の向上、空手道ならではの考え抜かれた力の抜き方、使いなどを学び、体力的に厳しい練習ではありますが奥深い面白さを兼ね備えたものになっており空手道にのめり込むきっかけとなりました。また、西千葉の空手道同好会との交流があり合同練習や西千葉の大学祭での共同出店などを行い他学部と情報交換ができるといった特徴があります。大会成績につきましては、和道流大会や千葉市・山武郡市での大会において優勝や準優勝など好成績を残してはいますが、東日本医科学生総合体育大会では残念

ながら思うような結果をあげることはできておりません。今現在厳しい状況ではありますが、過去の先輩方に恥じぬよう活気のある部活とし、好成績を残せるよう部員一同精進してまいります。

## 会員から

### 発効！核兵器禁止条約

「核兵器の終わりの始まり」カナダ在住で、被爆者のサーロー節子さんの言葉である。2021年1月22日、核兵器が国際法違反となる歴史的な日を迎えた。核兵器禁止条約の意義について、ノーベル平和賞受賞の国際NGO「ICAN」(核兵器廃絶国際キャンペーン)のフィン事務局長は「国際法で禁止されると、後戻りできない巨大な影響を与える」と述べた。

グテレス国連事務総長は「世界的な運動の集大成であり」国連の軍縮面の最優先課題の「核兵器の完全廃棄」にむけた重要な取組みだと語る。

核戦争防止国際医師会議(IPPNW)は「核戦争使用の恐ろしい脅威に立ち向

### 大場 敏明(昭48)

かい、世界各地で活動している多くの活動家の功績」と述べた。日本の反核医師の会(PANW)は「我々は人類の未来に大きな希望を持つことができた」と声明を出した。

34年前の1987年、私は全日本民医連・全国保険医団体連合会代表団の医師36人の一人として、ニュージーランドで開催されたIPPNWアジア太平洋地域シンポジウムに参加した。元民医連会長の助昭三先生(故人)らが中心となり大会決定文書に、「核兵器廃絶は緊急の課題」の方針を明記させた。

当時のIPPNWは「核実験の一時的停止と軍事費の削減」などの部分的・段階論の方針が中心で、日本代

末筆ながらこの場を借りて空手道部の設立と存続をされた先輩方、先生方に感謝申し上げます。

**役員名**  
 主将：菊地 佑  
 会計：小澤 拓真

表団が、「核廃絶・核全面禁止」が緊急にして死活的な重要性を持つと主張して、方針転換させたのである。

当時の報告パンフでは、「歴史の歯車は、いま、大きく動こうとしています」「核のない世界を創造するために」そして「平和な世界のために」戦い続けねばならないと結んだ。(1988年2月千葉民医連発行「ドクター・オーバ」の読んで為になるIPPNW報告)

核保有大国が加盟しなければ実効性がないのでは？という意見が、まことしやかに語られている。しかし、非人道的兵器禁止の歴史をふりかえれば、その兵器の生産・保有国が参加していなくても、国際条約が成立して多くの国が参加していけば、決して無視できなくなり、生産や使用をしなくなっていくのである。

例えば、対人地雷禁止条約が成立したときも、今も米国・ロシア・中国・南北朝鮮・インド・パキスタン・イスラエルなどはその条約に入っていない。それで実効性があるのかと批判された中でも、国際世論や監視体制を強めたりなどで、それ以降対人地雷は生産・使用されなくなったのである。最新報告では世界での使用

例はミャンマーだけで、ロシア・中国・米国も生産・使用しなくなっている。

国際世論が禁止の声を強め、国際社会の4分の3の国が参加している条約を、大国だからと言って無視出来なくなっている。使っていない兵器だという認識が、国家だけではなく、生産する企業、企業に融資する金融機関、一般市民に

## 欧州医学史巡り

### ロンドン科学博物館

#### ウェルカム医学ギャラリー

杉田 克生(昭54)

2020年2月中旬ケルン・ボン出張の帰路1泊だけロンドンに滞在した。その際見学した科学博物館内で新装になったウェルカム医学ギャラリー(正式名はMEDICINE: The Wellcome Galleries)を今回紹介する。2年前ロンドンを訪問した際は改装中であつたが、2019年11月16日にオープンとなった。博物館のホームページでは、World's largest medicine galleries」と紹介されている。確かに広さ3000㎡に3000以上の医療展示物が公開されている。ただ

共有されることで、事実上使えないもの、生産できないものとなってきたのである。これは、クラスタ爆弾禁止条約でも同様だ。核兵器禁止条約の実効性を発揮に国際世論を高めていくことが重要で、日本政府の出番である。唯一の被爆国として、核兵器禁止条約に署名し批准すべきである！

月、彼が開けたペトリ皿に偶然入ったカビである。培養液表面に成長しているカビに抗菌力があると考えた彼は、その後異なった種のアオカビを調べたが他では効果がなかった。抗菌力を有したペニシリウム・ノクタームは、彼の研究室の階下で専門家がカビを育てていたという幸運により運ばれた。当時は胞子が漂い出ること防ぐ適当な手段がなかったために、軽い胞子がエレベーターや階段から昇って、習慣的に開け放しであったフレミングの研究室のドアから「闖入」したと考えられている。



写真 フレミングの変異ペニシリウムカビの標本

し新型コロナウイルス感染症のため3月17日から閉館となり、正味24時間いなかっただロンドンでのこのギャラリーに入れたことは幸運であつた。

多くの医学関係展示品がある中に、アレクサンダー・フレミングが1935年友人ダグラス・マクロードに渡したペニシリウムカビの標本がある(写真)。1928年9

剤注射で抑える可能性に思いいたらなかった。1935年にゲハルト・ドマーはプロントジルが全身連鎖球菌感染症に効果的だとする報告をしたが、これが10年弱早ければ1928年にフレミングがペニシリン研究を中止することはなかったであろう。ただし、この変異型を保管し続けたことで、オックスフォードのサー・ウィリアム・ダン病理学教室教授ジョージ・ドレイヤーがフレミングから変異株を譲り受けることになる。そのドレイヤーの後任がハワード・ウォルター・フローリーである。彼は物理学者で病理学者かつ内科専門医であった。指導者として立派な資質と生来のユーモアのセンスがあり、病変の原因を探究し、その治療開発にチームで努めた。そのチームの一人が、生化学者で才能ある音楽家でもあったエルンスト・ボリス・チエーンである。彼の協力により、その後オックスフォードグループがペニシリンを大量に生産することが可能となった。

感覚症とは「二重の生物学」と学生時代に習ったが、それを探究する研究者を加えた「三重の生物学」で新発見が得られるのであろう。

# 同窓会員著書の紹介

増田善昭(昭35) 著

## 句集「心音」

玉藻社 定価 2200円(税込)

紹介者 小野 幸雄(昭37)



先生が幹事学年であった医学部3年生時(1958年)に私が入会して以来のお付き合いです。

私は増田善昭先生(元第三内科教授)の2年後輩にあたります。今回図らずも先生の第一句集「心音」の紹介をさせて頂くことになりました。先生とは、大学の「やはぎ会」(俳句会)の

金唄と三味の続ふや津軽の夜をどるとは云はずはねるといふ踊  
先生は、青森県大鰐町のご出身です。  
朝夕の夏灯絶やせず母白寿  
母訪へば母藤椅子に所在なげ  
津軽野はすでに雪とや朴落葉  
ご長命のお母さまを慕い労わる心が伝わります。  
父の日を迎へむ父の句を替へて  
亡きお父様(増田手児奈)は、やはりホトトギス同人で、凡秋先生と同世代の東大俳句会のお仲間です。雪掻の旁知り尽くす妻と添ひさりげなく奥様を讃えます。

して個性豊かな佳き俳句を生む楽しみに浸り得る」と先生は述べておられます。昭和3年(1928年)加賀谷先生が千葉医科大学に赴任されて以来、昭和45年(1970年)凡秋先生のご逝去後も弟子たちが受け継ぎ50年に及ぶ長い歴史を持ちます。教官も学生も分け隔てなく(やあ、やあ)とお声をかけて下さる先生の

この句集「心音」は、高浜虚子の孫と曾孫にあたる星野椿と高士が主宰する俳誌「玉藻」に掲載された句のみから構成されています。

八月やふるさと少し近くなる  
列車は力強く走りふるさとへ一直線。  
爽やかや踏み切り一つ越せば野路  
踏切を越せばふるさと、高揚感を感じます。  
郭公をただ聞きたくしてふるさとへ  
稲の香も水音もこの里のもの  
先生のふるさと賛歌が続きます。  
夕雲に突き当たりつ鳥帰る  
鷹消えて元に戻りし野の深さ  
雲と風ただそれだけの野路の秋  
一瞬にして変貌する自然の姿を捉える確かな眼、そして津軽野の広さ

平成15年(2013年)の初投句から令和2年(2020年)直近までの300句で、玉藻創刊九十周年記念企画の「玉藻令和叢書」の一冊として刊行されたものです。題字「心音」は先生の専門領域の聴診器で聴く心音であり、同時に、人の感性に潜む心の音を表現していると思われま

先生はホトトギス同人、玉藻同人であり、有季定型を基礎とする作風でありながら、この句集に一貫して流れ響くものは先生の素直で飾らない心の音であるように思えます。それがご家族への愛、望郷歌、自然賛歌として表れます。  
学生時代の句で私には忘れられない句があります。  
と深さ。  
春の雨心曳きすりながら旅  
旅に出でまた旅に出で百日紅  
何処より何処へ今朝の秋の蝶  
白牡丹崩れ落ちたる花の高  
コヌモスの風に乗りつ風を乗せ  
人生という旅、そしてその不確かさ。花たちの危うさとしたたかさに見る品位。  
風連れて一景落ち来る峠口  
岩を噛む水のすべての冬めける  
「風連れて……」「岩を噛む水……」しっかりと視ていなければ出て来ない表現です。  
(句集「心音」より抜粋)

先生の青春句です。  
メーデーのない街空へ  
シャツ絞る  
赤い本の糸は小鳥の名刺  
髪に降る

なお、この句集「心音」

松永正訓(昭62) 著

## 発達障害 最初の一步

中央公論新社 定価 1500円(税別)



は、本年2月、千葉県俳句作家協会より千葉県俳句大賞を受賞されており、是非、ご一読をお勧めします。

勉強を始めてからだいぶ時間が経ちました。医学論文・教科書・専門書・一般啓蒙書を読んで知識を増やしていくと、それと並行するように、発達障害の子どもの私がクリニックをしながらのクリニックをしながらに多く訪れるようになりました。

私が開業医になった2006年の時点では、発達障害の子どもの現在ほど多くありませんでした。ただ、風邪で受診する子の既往歴の項目に、「汎汎性発達障害」や「自閉症」という文字があることに出会い、私は発達障害について少しずつ勉強しようと考えました。勉強と言っても、医学生時代の教科書はぜんぜん役に立ちませんでした。私の持っている精神科の教科書(1978年発行)には、「早期幼児自閉症」という言葉があり、この疾患は児童分裂病(統合失調症のこと)との違いがまだ明確ではありませんでした。

であれば、保護者の不安が消えるまで十分に説明を尽くせばいいのですが、外来診療でできることには限りがあるのも現実です。私がいつも感じている「言い足りないこと」「伝え足りないこと」を文章にまとめてみようと思つて執筆したのが本書です。

定期的なやつてくる親子もいますし、何か問題が起きたときだけ相談に見える家族もいます。そういった家族と、可能な限り時間を作つて話をするようにしています。私の助言が家族にとって何かの助けになっていることもありそうですし、逆に私が患者家族から学ぶこともあります。  
みんなどの家庭も、大なり小なり悩みを抱えています。特に、初めて発達障害の可能性を指摘された保護者は、その先の道筋が見えずに動揺します。本来

私はこの本の中で二つの療育方法について書いています。前者には「子どもを褒めて伸ばす」というメッセージが含まれています。後者には「子どもを尊重する」という思想が根本にあります。私はこの二つが発達障害の子を育てていく基本であると考えています。それは自閉スペクトラム症だけでなく、ADHDやLDの子にも当てはまります。  
本書を読んでいただければ、開業医がどんなことを考え、どういう医療を行っているのかお分かりになると思います。同窓のみならず、ぜひ、本書を手にとってみてください。



櫻本美輪子(平2)、定 真理子 著

### 医師が教える子供の食事大全

(株) ワニブックス 定価 1200円(税別)



この度、2020年12月に拙著「医師が教える子供の食事大全」を発売致しました。本書は2011年初版の拙著「医師も実践している子供が丈夫になる食事」に加筆・修正し、新装改訂版として出版したものです。

私が分子整合栄養医学(オーソモレキュラー医学)と出会って臨床の場に活用するようになってから、14年目になります。当時、日本ではまだマイナーな学問でしたが、今では多くの医療従事者が賛同し、セミナーや学会活動も増えてきたことはとても喜ばしく感じています。ここ10年余りの間にも、分子整合栄養医学の新しい研究・治療報告が数多く発表されており、科学的裏付けも充実してきています。

近年年度重なる災害や不穏な世界情勢、昨年からコロナ禍などの影響もあつて

度ご自身の食生活を見直すきっかけにして頂ければ幸いです

甚です。

上谷実礼(平12) 著

### ミレイ先生のアドラー流勇気づけテレワーク・在宅勤務トラブルサポート

メデイカ出版 定価 2640円(税込)



2000年(平成12年)卒業の上谷実礼と申します。同窓会報に拙著をご紹介します。

卒業の上谷実礼と申します。同窓会報に拙著をご紹介します。心よき感謝申し上げます。16年間の産業界活動の中でアドラー心理学をはじめとする心理学の学びを深めることになり、2017年から『ミレイ先生のアドラー流勇気づけシリーズ』として「勇気づけ保健指導」「医療コミュニケーション」「メンタルヘルスサポート」「テレワーク・在宅勤務トラブルサポート」の4冊の著書をメデイカ出版様より出版させて頂いたできました。

私は、産業界としての活動の他に企業研修やコンサルティングも行っています。最近ではテレワークに

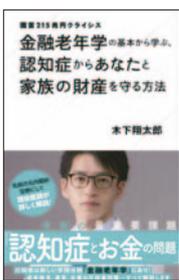
人も、「やり方」レベルではなく「あり方」レベルの変容が必要なのです。

これからの時代に求められる「あり方」として、組織には「心理的安全性」を、個人には「自己受容」をご提案するとともに、豊富な事例をもとに、声掛けの仕方や関わり方についても具

木下翔太郎(平26) 著

### 金融老年学の基本から学ぶ、認知症からあなたと家族の財産を守る方法

星海社 定価 1100円(税別)



「600万人以上の認知症患者を抱え、20人に1人が認知症の超高齢社会・日本。認知症患者の資産は既に143兆円にのぼり、2030年には国家予算の倍を超える215兆円に到達するともいわれます。その一大資産は、認知症の判断力低下を狙った詐欺や悪質商法の格好の標的なのです。それ以外にも成年後見制度や遺言をめぐる家族内トラブル、企業の不祥事対策など

様々な点で「認知症とお金の問題」が注目されています。認知症は完全な予防ができず誰もが当事者になります。この本ではあなた自身や家族の財産を守るために、認知症の進行前からできることを解説します。」(出版社紹介文)

体的に学べる内容となっております。テレワークに関わる方だけでなく、すべてのビジネスパーソンに読んでいただくと嬉しいですよ。



※書籍の情報はQRコードからご覧いただけます。

マについて研究を行なっております。本書のような問題は、私のような未熟者が語るには大きすぎるテーマかとは思いますが、差し迫った社会問題であり、啓発の手段は多い方がいいと考え、執筆させていただきました。現在金融機関と行なっている共同研究の話や、元行政官の視点で見た政策的な動向など、類書にはない話も盛り込まれていると思います。同窓の先生方にご高覧いただけましたら幸いです。

小象の会 会報 第30号



眼科教室同窓会 2020年第57号



### 令和2年度 第2回理事会議事要旨 (Zoom利用のWeb会議)

日時：令和2年11月18日  
(水) 18時より

出席者…

- 濟陽高穂 (会長)
- 鈴木信夫 (副会長)
- 吉川廣和 (副会長)
- 吉原俊雄 (副会長)
- 大井利夫 (参与)
- 伊藤達雄 (参与)
- 赤倉功一郎 (安西尚彦)
- 石川詔雄 (井上賢治)
- 上田真喜子 (岡本和久)
- 白澤 浩 (諏訪敏一)
- 諏訪園靖 (田邊政裕)
- 鶴田好孝 (十川康弘)
- 中島 透 (中村真人)
- 西川哲男 (幡野雅彦)
- 林田和也 (松前孝幸)
- 宮本恒彦 (横須賀忠)
- 大西俊一郎 (千葉代理) (敬称略)

いる。支出については会議や総会開催等がなく総務費の支出が抑えられており、支部活性化事業費は7支部(東京、千葉、茨城、神奈川、静岡、埼玉、栃木)に支援していること等が説明され了承された。

#### (2) 会報編集関係

白澤浩理事より、次号ののはな同窓会報185号の発行は、令和3年1月1日であり、例年通りに進められているとの説明があった。

#### 2. 協議事項

##### (1) 役員会務分担について

白澤理事より資料に基づき会則の改定により新たな会務分担案が示された。各部署にWeb会議などを開催し責任者を決め、進めていく事とした。

##### (2) 役員改選について

白澤理事より役員改選の年にあたり、理事会メンバーに依頼した新役員に対する期待事項等のアンケート結果の要約が説明された。

##### (3) 総会について

令和3年度の総会は、2年度の総会が新型コロナウイルス感染症拡大防止のため中止となったため講演会企画をそのまま令和3年度の案とした。開催方法やシンポジストの予定、評議員会開催など今後の状況を考慮し開催することが承認された。

##### (4) メモリアル事業について

白澤理事より資料に基づき医学部新棟内のアクティブラーニングスペースに液晶モニターを設置する事、デジタルコンテンツとして千葉大学の医学部の歴史、医学部本館内や上空からの撮影を進める事などが説明された。本館内の貴重な資料等の保管については、現在のとこ保管資料候補

行い、会長にはリーダーシップを求め、  
・ 内部評価をしていく  
・ 評議員の参加  
・ メモリアルプロジェクトを進めていく  
・ 若い会員を含めた会員の視点から見た同窓会の運営・事業として研究助成などを行う

#### 財政の確保

これらのアンケート結果をもとにして総務会で次期会長、役員候補選出について検討する事が承認された。

#### (3) 総会について

令和3年度の総会は、2年度の総会が新型コロナウイルス感染症拡大防止のため中止となったため講演会企画をそのまま令和3年度の案とした。開催方法やシンポジストの予定、評議員会開催など今後の状況を考慮し開催することが承認された。

#### (4) メモリアル事業について

白澤理事より資料に基づき医学部新棟内のアクティブラーニングスペースに液晶モニターを設置する事、デジタルコンテンツとして千葉大学の医学部の歴史、医学部本館内や上空からの撮影を進める事などが説明された。本館内の貴重な資料等の保管については、現在のとこ保管資料候補

のリストが明確でないため、リストの確認や保管場所については確定を保留する事などについて承認された。

#### 3. その他

##### (1) むのはな同窓会からの支援について

千葉大学医学部附属病院、

### 令和2年度 第3回理事会議事要旨 (Zoom利用のWeb会議)

日時：令和3年2月18日  
(木) 18時より

出席者…

- 濟陽高穂 (会長)
- 吉川廣和 (副会長)
- 鈴木信夫 (副会長)
- 吉原俊雄 (副会長)
- 大井利夫 (参与)
- 伊藤達雄 (参与)
- 赤倉功一郎 (安西尚彦)
- 石川詔雄 (井上賢治)
- 上田真喜子 (岡本和久)
- 栗原正利 (黒木春郎)
- 剣持 敬 (白澤 浩)
- 諏訪敏一 (諏訪園靖)
- 田邊政裕 (鶴田好孝)
- 十川康弘 (中島 透)
- 中村真人 (西川哲男)
- 幡野雅彦 (林田和也)
- 松前孝幸 (三科孝夫)
- 宮本恒彦 (横須賀忠)
- 高橋宏和 (千葉代理) (敬称略)

千葉大みらい医療基金への支援については既に同窓会報で、むのはな同窓会員に寄付を呼びかけている事から、同窓会としての寄附については引き続き検討する事とした。

#### 結果、Web開催とする

とした。吉原副会長より5月に総会開催案内と返信はがき(出欠と総会委任状)を送付し、新役員を紹介する紙面を掲載した会報を総会開催後早め(6月)に発行する事が説明され、承認された。

##### (2) 令和3年度総会について

白澤理事より資料に基づきステーションコンファレンス東京にてZoom併用によるハイブリッド形式での開催を予定しており、講演会の開始時間は16時30分からとし、令和2年度に開催できなかった講演会企画を行う事が説明された。講演案内を千葉大学学生に参加呼び掛けを積極的に行う提案がなされた。

##### (3) 令和3年度役員選出について

白澤理事、吉原副会長より資料に基づき、令和3年度新理事、新役員、会務分担について説明され、承認された。各部の責任者については各部署内にて決定する事とした。

##### (4) 令和3年度予算編成

幡野理事より資料に基づき説明され、総会予算は開催案内を送付するため増額し、IT広報関連事業費はHPをリニューアルしサイト更新費用が不要となり減

##### (5) メモリアル事業について

白澤理事より資料に基づき医学部新棟内のアクティブラーニングスペースに液晶パネルを設置、歴史編纂のデジタルコンテンツ作成、医学部本館の撮影など予定しており、歴史編纂については田邊政裕理事を中心に各部の協力を得ながら進める事とした。医学部本館の映像には建設当時のことなど詳細を調べ字幕スーパーあるいはナレーションで説明を入れる提案。すでに過去の歴史についてはHP上に記録が掲示されている点改めて周知された。

#### (6) その他

千葉大学基金のパンフレットを会報に同梱する事が承認された。

#### 会報に新役員、理事の写真掲載する提案がなされ

承認された。

#### 地区のむのはな会誌の記事をのむのはな同窓会報に転載

することが提案された。

結果、Web開催とすることとした。吉原副会長より5月に総会開催案内と返信はがき(出欠と総会委任状)を送付し、新役員を紹介する紙面を掲載した会報を総会開催後早め(6月)に発行する事が説明され、承認された。

##### (2) 令和3年度総会について

白澤理事より資料に基づきステーションコンファレンス東京にてZoom併用によるハイブリッド形式での開催を予定しており、講演会の開始時間は16時30分からとし、令和2年度に開催できなかった講演会企画を行う事が説明された。講演案内を千葉大学学生に参加呼び掛けを積極的に行う提案がなされた。

##### (3) 令和3年度役員選出について

白澤理事、吉原副会長より資料に基づき、令和3年度新理事、新役員、会務分担について説明され、承認された。各部の責任者については各部署内にて決定する事とした。

##### (4) 令和3年度予算編成

幡野理事より資料に基づき説明され、総会予算は開催案内を送付するため増額し、IT広報関連事業費はHPをリニューアルしサイト更新費用が不要となり減

##### (5) メモリアル事業について

白澤理事より資料に基づき医学部新棟内のアクティブラーニングスペースに液晶パネルを設置、歴史編纂のデジタルコンテンツ作成、医学部本館の撮影など予定しており、歴史編纂については田邊政裕理事を中心に各部の協力を得ながら進める事とした。医学部本館の映像には建設当時のことなど詳細を調べ字幕スーパーあるいはナレーションで説明を入れる提案。すでに過去の歴史についてはHP上に記録が掲示されている点改めて周知された。

#### (6) その他

千葉大学基金のパンフレットを会報に同梱する事が承認された。

#### 会報に新役員、理事の写真掲載する提案がなされ

承認された。

#### 地区のむのはな会誌の記事をのむのはな同窓会報に転載

することが提案された。

#### Web会議において、チャット等を用いた発言方法などZoom利用の技術的サポート提供の提案がなされた。

承認された。

#### 議題

##### 1. 報告事項

##### (1) 予算執行状況(中間報告)

幡野雅彦理事より資料に基づき予算の執行状況について説明があった。収入については、会報を合本としたため会費請求回数が少なくなり会費収入が減少して

濟陽高穂会長が議長となり議事が進められた。

##### (2) 役員改選について

白澤理事より役員改選の年にあたり、理事会メンバーに依頼した新役員に対する期待事項等のアンケート結果の要約が説明された。

##### (3) 総会について

令和3年度の総会は、2年度の総会が新型コロナウイルス感染症拡大防止のため中止となったため講演会企画をそのまま令和3年度の案とした。開催方法やシンポジストの予定、評議員会開催など今後の状況を考慮し開催することが承認された。

##### (4) メモリアル事業について

白澤理事より資料に基づき医学部新棟内のアクティブラーニングスペースに液晶モニターを設置する事、デジタルコンテンツとして千葉大学の医学部の歴史、医学部本館内や上空からの撮影を進める事などが説明された。本館内の貴重な資料等の保管については、現在のとこ保管資料候補

#### 財政の確保

これらのアンケート結果をもとにして総務会で次期会長、役員候補選出について検討する事が承認された。

#### (3) 総会について

令和3年度の総会は、2年度の総会が新型コロナウイルス感染症拡大防止のため中止となったため講演会企画をそのまま令和3年度の案とした。開催方法やシンポジストの予定、評議員会開催など今後の状況を考慮し開催することが承認された。

#### (4) メモリアル事業について

白澤理事より資料に基づき医学部新棟内のアクティブラーニングスペースに液晶モニターを設置する事、デジタルコンテンツとして千葉大学の医学部の歴史、医学部本館内や上空からの撮影を進める事などが説明された。本館内の貴重な資料等の保管については、現在のとこ保管資料候補

# 令和3年度 第1回理事会議事要旨 (Zoom利用のWeb会議)

日時：令和3年4月21日

(水) 午後6時

出席者

濟陽高穂 (会長)

吉川廣和 (副会長)

吉原俊雄 (副会長)

秋葉哲生 (会計監事)

大井利夫 (参与)

赤倉功一郎 安西尚彦

石川昭雄 井上賢治

上田真喜子 岡本和久

栗原正利 黒木春郎

劍持 敬 齊藤光江

白澤 浩 諏訪敏一

田邊政裕 鶴田好孝

十川康弘 中島 透

中村真人 西川哲男

幡野雅彦 林田和也

ピアス洋子 菱木知郎

松前孝幸 三木隆司

三澤園子 三科孝夫

宮本恒彦 横須賀忠

濟陽高穂会長が議長となり協議が進められた。

## 1. 報告事項

### (1) 広報編集関係

白澤理事より総会開催案内と返信はがき(出欠と総会委任状)を令和3年4月30日に送付する事が説明された。また、次号の会報は新役員を紹介する紙面を掲

載し、総会開催後6月30日に発行予定である事が説明された。

## 2. 協議事項

### (1) 名誉会員の推薦について

白澤理事より資料に基づき千葉県なのはな会より秋葉哲生氏、大学なのはな会より瀧口正樹氏、東京なのはな会より道永麻里氏、各1名推薦された旨の説明があり、候補者の推薦基準を満たしているとして3名を名誉会員に、名誉会長に濟陽高穂会長を推挙することが了承され、総会に諮ることとした。

### (2) 令和3年度役員について

白澤理事より資料に基づき総会にて追認する5名の理事、新評議員について説明があり、会務分担の各責任者について説明があった。責任者、副責任者案が認められ総会に諮る事とした。会務については、総会での承認前から各部で提案や協議などができよう速やかに進めていく事が提案

された。今後の活動の準備のため実際に動き出すこととした。地区なのはな会については地区単位でなく、少人数の県でもその活動に

ついて広めていくよう進めていく事が提案され、今後は他学部同窓会との交流も必要あることが述べられた。

### (3) 令和2年度決算について

幡野理事より、資料に基づき令和2年度の決算報告について説明があり、収入は例会での徴収ができず、会報の発行も2回となり会費収入が減少、集金事務費は増額、名簿作製による広告掲載収入があり、支出はコロナ禍により対面での会議開催が出来ず会議費用が減額、備品費よりWeb会議用パソコン、マイク、カメラを購入、会報・会誌作製費用は年3回発行予定が2回となり減額、会報発送作業は業者に委託したため増額、支出が減額のため基金に積立したことなど、令和2年度決算報告があり、承認された。

### (4) 令和3年度事業計画について

白澤理事より資料に基づき令和3年度の事業計画が説明された。各地域のはな会との交流についてはZoom

での参加を呼びかけ、支部の活動報告を依頼するなど具体的な働きかけにより進める事とした。卒業2年間の臨牀研修後の働きかけが同窓会として重要である事、学生担当部、渉外部、評議員担当部などの新会務分担任で今後について有意義な情報発信など、アイデアを検討する事とした。学生時代になのはな同窓会の存在価値を示せる努力が必要であること、薬学部との交流、総合大学としての機能が果たせる事を希望などの意見があった。

### (5) 令和3年度予算案

幡野理事より資料に基づき令和3年度予算案について、ほぼ前年度の予算を踏襲しており、収入については、メモリアル事業費用を増額、支出については、総会費を、会報とは別に総会案内を会員に送るため増額、会報・会誌関連諸費を増額、IT広報関連経費は動画をYouTubeで掲載と変更したため更新費用が不要となり減額、メモリアル事業費を増額した事などが説明され、承認された。

### (6) のほな同窓会賞選考結果

白澤理事より資料に基づき功労賞の候補者1名についての説明があった。選考委員会から推薦のあった候補者西川哲男氏が承認された。

令和3年度総会案内が示された。ハイブリッドでの開催であることが説明され、年次活動については③に各支部報告を加え、各理事に総会への出席を依頼した。懇親会は見送る事とした。学生にはZoom参加による講演会への出席を学生担当部より呼びかける事が依頼され、学生や卒業10年のメーリングリストも利用し、Zoomによる配信も考えている事が説明された。吉原副会長から講演される4名の女性医師の他、パネルにて8名ほどの女性医師の紹介も予定している事が説明された。学長、医学研究院長にも総会への出席を依頼する事が提案された。

### (7) 総会について

令和3年度総会案内が示された。ハイブリッドでの開催であることが説明され、年次活動については③に各支部報告を加え、各理事に総会への出席を依頼した。懇親会は見送る事とした。学生にはZoom参加による講演会への出席を学生担当部より呼びかける事が依頼され、学生や卒業10年のメーリングリストも利用し、Zoomによる配信も考えている事が説明された。吉原副会長から講演される4名の女性医師の他、パネルにて8名ほどの女性医師の紹介も予定している事が説明された。学長、医学研究院長にも総会への出席を依頼する事が提案された。

### (8) メモリアル事業について

資料に基づき説明された。医学部の歴史編集デジタル化について田邊理事よりメモリアルウォールの計画から始まった歴史編纂について説明があり、140有余年にわたる各教室、診療科の歴史を一目で見られるような年表を作成し、総会で披露する予定であることが説明された。

### (9) その他

・なのはな同窓会館の痛みがひどく、今後について検討すべき事項であることが述べられた。  
・今後の活動がスムーズにいくよう理事会メンバーのメールアドレスを役員・理事に知らせる事とした。

## 令和3年度 のほな同窓会総会議事要旨

日時：令和3年6月12日

(土) 15時30分

場所：ステーションコンファレンス東京

会場とWebによるハイブリッド開催

出席者：144名(会場27名、オンライン参加者117名)

委任状：1,092名

吉原俊雄副会長の司会により開会となり、まず物故者74名に黙祷を捧げた。濟陽高穂会長の挨拶の後、吉原副会長が議長に選出され議事が進められた。

## 議事

### (1) 名誉会員の推薦について

白澤理事より、内規に基づき推挙された秋葉哲生氏(昭50)、瀧口正樹氏

品の展示・収納については、品物が集まらず保管資料候補のリストが明確でないため、リストの確認や保管場所については確定を保留する。  
・医学系総合研究棟内のアクティブスペースに120インチ程度の液晶モニターを設置予定。  
・医学部本館記録映像について栗原理事より説明があり、単なる記録だけでなく本格的なドキュメンタリー映像としての製作をZEPESのドキュメンタリー製作をしている新倉ディレクターに依頼し、ドローンによる玄鼻キャンパス撮影、本館の引越越し映像、七天王塚、医学部出身の著名な先生の紹介など医学的、歴史的な

### (9) その他

財産の映像を来年4月に完成予定としており、完成予定の作品活用についても説明され、本家が承認された。建物映像とともに歴史の内容も一緒にしたコンテンツ製作の要望があり、協力して進める事とした。今後、150周年記念事業にも合わせた製作についても検討し、ナレーションについては草刈正雄氏に依頼予定である事など説明された。

・なのはな同窓会館の痛みがひどく、今後について検討すべき事項であることが述べられた。  
・今後の活動がスムーズにいくよう理事会メンバーのメールアドレスを役員・理事に知らせる事とした。

(昭56)、道永麻里氏(昭56) 3名の名誉会員、済陽高穂氏の名誉会長推薦について説明があり、承認された。

(2) 年次活動について(報告事項)

① 庶務部報告  
白澤理事より、令和2年度の各会議開催等について報告された。

② 事業部報告  
同理事より、同窓会賞の授与、同窓会報の発行、同窓サポート・プロジェクト、メモリアル事業について報告された。

(3) 令和2年度決算について

① 決算報告  
幡野雅彦理事より、決算内容について以下のとおり説明があった。収入については、コロナ禍により会報の発行回数が減り、各医局例会での納入依頼が出来ず会費収入が減少したが、支出は会議費用の減少、会報・会誌費用の減少など支出が減ったため、基金に積立てが出来た事など、令和2年度決算報告があり、承認された。会費収入については、会員への働きかけなど会務分担の各部でも検討する事が提案された。

② 監査報告  
秋葉哲生会計監事より、令和2年度の会計監査を実施したところ適正である事

が報告された。

(4) 令和3年度事業計画について  
白澤理事より、会報発行の選出について説明があった。白澤理事より、会報発行の選出について説明があった。

① 会長・副会長  
会則第9、10、15条に則り、会長・吉原俊雄氏(昭53)、副会長・栗原正利氏(昭54)・中村真人氏(昭54)・白澤浩氏(昭57)、参与・大井利夫氏(昭35)・吉川廣和氏(昭40)、伊藤達雄氏(昭42)、会計監事・岩倉弘毅氏(昭37)・秋葉哲生氏(昭50)の役員が承認された。

② 理事  
会則第13条に則り、各地区るのはな会より新たに選出された理事、ピアス洋子氏(昭57)千葉県のはな会、斉藤光江氏(昭59)東京のはな会、菱木知郎氏(平5)千葉大学のはな会、高橋宏和氏(平11)千葉県のはな会、三澤園子氏(平11)、以上5名が承認された。

③ 評議員  
会則16条に則り、新正会員から易安剛氏(令3)原田悠斗氏(令3)が選出され評議員が承認された。

会務分担、総務会のメンバーについて説明され、承認された。

済陽会長、吉原新会長より挨拶があった。

伊藤達雄参与の辞により閉会となった。

白澤理事の司会により、功労賞受賞者 西川哲男氏の略歴等が紹介され、表彰式が行われた。済陽会長より表彰盾と副賞が授与された。

るのほな同窓会受賞者挨拶  
功労賞受賞者 西川哲男氏が挨拶された。

特別講演  
座長吉原新会長の紹介により「多分野で活躍する同窓女性医師」と題して、大川玲子氏(昭47)、上田真喜子氏(昭50)、三澤園子氏(平11)、千先園子氏(平21)4名による特別講演が行われ、有意義なDiscussionがなされた。

(6) 役員を選出について  
白澤理事より現役員の任期(2年)満了に伴う役員

り挨拶があった。

伊藤達雄参与の辞により閉会となった。

白澤理事の司会により、功労賞受賞者 西川哲男氏の略歴等が紹介され、表彰式が行われた。済陽会長より表彰盾と副賞が授与された。

るのほな同窓会受賞者挨拶  
功労賞受賞者 西川哲男氏が挨拶された。

特別講演  
座長吉原新会長の紹介により「多分野で活躍する同窓女性医師」と題して、大川玲子氏(昭47)、上田真喜子氏(昭50)、三澤園子氏(平11)、千先園子氏(平21)4名による特別講演が行われ、有意義なDiscussionがなされた。



令和3年度予算

収入の部	款 項 目	予算額(円)
	会 費 等	18,800,000
	事業収入(註1)	7,300,000
	他会計より受入	2,000
	寄 付 金	500,000
	基金より取崩し(註2)	5,000,000
	雑 収 入	16,000
	(当期収入計)	31,618,000
	前年度繰越金受入	11,965,053
	収入合計	43,583,053

支出の部	款項目(節)	予算額(円)
	総 務 費(註3)	14,100,000
	事 業 費(註4)	20,320,000
	事業税等	1,500,000
	予 備 費	7,563,053
	積 立 金	100,000
	次期繰越金	
	支出合計	43,583,053

令和2年度決算報告

収入の部	款 項 目	予算額(円)	決算額(円)	対予算額(円)
	会 費 等	19,800,000	17,033,780	-2,766,220
	事業収入(註1)	7,000,000	7,461,446	461,446
	他会計より受入	2,000	85,711	83,711
	寄 付 金	500,000	200,000	-300,000
	基金より取崩し(註2)	3,000,000	0	-3,000,000
	雑 収 入	16,000	1,003,219	987,219
	前年度繰越金受入	8,988,911	8,988,911	
	収入合計	39,306,911	34,773,067	-4,533,844

支出の部	款項目(節)	予算額(円)	決算額(円)	対予算額(円)
	総 務 費(註3)	13,200,000	8,384,043	-4,815,957
	事 業 費(註4)	18,420,000	9,817,871	-8,602,129
	事業税等	1,400,000	1,506,100	106,100
	予 備 費	6,186,911	0	-6,186,911
	積 立 金	100,000	3,100,000	3,000,000
	次期繰越金		11,965,053	11,965,053
	支出合計	39,306,911	34,773,067	-4,533,844

註1～4：収入、支出の主要細目等

収入の部	款 項 目	令和3年度予算	令和2年度予算
(註1)	事業収入	7,300,000	7,000,000
(註2)	基金より取り崩し	5,000,000	3,000,000

支出の部	款 項 目	令和3年度予算	令和2年度予算
(註3)	総務費	14,100,000	13,200,000
	会議費	4,400,000	3,500,000
	人件費	7,000,000	7,000,000
	その他	2,700,000	2,700,000
(註4)	事業費	20,320,000	18,420,000
	会報・会誌	5,600,000	5,400,000
	学事奨励	550,000	550,000
	・るのほな賞	200,000	200,000
	・るのほな美術展	200,000	200,000
	・猪之鼻奨学会	400,000	400,000
	各種助成	800,000	800,000
	・附属図書館	700,000	700,000
	・白衣式	100,000	100,000
	・国際交流支援	200,000	200,000
	・ちばBCRC支援	200,000	200,000
	・白菊会	4,100,000	4,100,000
	・支部	1,300,000	1,300,000
	・同窓サポートプロジェクト	500,000	800,000
	・IT関連事業費	5,000,000	3,000,000
	メモリアル事業等	670,000	670,000
	その他		

の は な 同 窓 会 費

口座振替ご利用の先生方へ

同窓会会費納入に口座振替をご利用いただき厚くお礼申し上げます。

さて、令和3年度同窓会費5,000円をご指定口座より7月20日に振り替えさせていただきます。

今後とも同窓会活動にご理解ご協力をお願い申し上げます。

Table with 2 columns: Name (e.g., 吉田久保, 近内康夫) and Birth Year (e.g., 昭20, 昭25).

Table with 2 columns: Name (e.g., 本位泰久, 清平水介) and Birth Year (e.g., 昭28, 昭36).

Table with 2 columns: Name (e.g., 北山村憲太, 村山太温) and Birth Year (e.g., 昭38, 昭40).

おくやみ

新型コロナウイルス感染症流行がなかなか収束する気配を見せず、ほとんどの会合がWebで開かれるようになってから1年以上が経過しました。

会費は貴重なものであると改めて認識したという声を多く聞きます。ただWebを使った教育セッションなどは今後も残り、むしろ主流になっていくのではないかと考えています。

変化です。一方で長らく親しんだ医学部本館は廊下が広く屋根も高いなど広々とした印象が強く、そのありがたも改めて認識しています。

編集後記

千葉医学97巻1号 2021年2月

最終講義に代えて 世紀に架ける生命科学の時代を歩んで 瀧口正樹 相馬孝博

千葉医学会奨励賞 網羅のマイクロRNA発現解析を起点とした腎癌治療抵抗性メカニズムの解明と新規治療標的分子の探索 山田康隆

学会 第1419回千葉医学会例会・第42回千葉泌尿器科同門会学術集会 第1428回千葉医学会例会・臓器制御外科学教室談話会

編集後記 白澤 浩

Chiba Medical Journal Chiba Medical Society Award Review Advances in magnetic resonance neuroimaging of neuropathy from degenerative spinal disorders Yawara Eguchi Chiba Medical Society Young Investigator Award Minireview Cancer stratification into molecular subtypes and target therapy development Yukari Takeno, Kazuko Kita, and Atsushi Kaneda

千葉医学97巻2号 2021年4月

原著 redcord®を使用したAthlete Tuning Method® (ATM) トレーニングによるバランス能力向上効果についての検討 ケビン山崎 池澤 智 大鳥精司 志水浩二 折田純久 江口 和志 賀康浩 佐藤崇司 佐藤 雅 鈴木雅博 榎本圭吾 高岡宏光 水木誉凡 穂積崇史 土屋流人 金 勤東 小田切拓磨 向畑智仁 菱谷崇寿 古矢丈雄 牧 聡 稲毛一秀

千葉医学会奨励賞 大規模国際レジストリーを用いたたこほば症候群の臨床像、予後、および病態の解明 加藤 賢

学会 第1429回千葉医学会例会・第20回呼吸器内科例会 (第34回呼吸器内科同門会) 第1430回千葉医学会例会・第38回脳神経内科学教室例会

第13回ちばBasic & Clinical Research Conference学生発表抄録 編集後記 大鳥精司

Chiba Medical Journal Chiba Medical Society Award Review The role of transcription factor in the regulation of autoimmune diseases Akira Suto

第98回千葉医学会総会開催のご案内 第96回千葉医学会学術大会